

熊本県の経済情勢

2021年冬 臨時特別号

～ “ 創造的復興のあゆみ ” 熊本地震からの5年間をグラフで振り返る ～

熊本県 企画振興部 統計調査課 情報解析班

本年4月で2016年の熊本地震の発生から**5年**が経ちました。この間の経済の動きについて、「熊本県の経済情勢」（毎月発行）の項目ごとに、**グラフ**で振り返ってみましょう。

（補足） グラフは、大きく分けて **2種類** 用意しています。

1つ目は各月の動きを見る「**実数値**」の推移、**2つ目**はトレンドを見る「**移動年計(*)**」（又は「**12か月後方移動平均(*)**」など）です。

*末尾の注釈参照

目 次

1	消費・物価		
1-1	【熊本県】	百貨店・スーパー販売額（既存店）	P. 2
1-2	【熊本県】	乗用車登録台数	P. 3
1-3	【熊本県】	消費者物価指数（総合）	P. 4
2	投資		
2-1	【熊本県】	新設住宅着工戸数	P. 5
2-2	【熊本県】	公共工事請負額	P. 6
2-3	【熊本県】	建築着工床面積（非居住用）	P. 7
3	生産・企業倒産		
3-1	【熊本県】	鉱工業生産指数（季節調整済）	P. 8
3-2	【熊本県】	企業倒産負債総額	P. 9
4	貿易		
4-1	【熊本県】	輸出額	P. 10
4-2	【熊本県】	輸入額	P. 11
5	観光		
5-1	【熊本県】	延べ宿泊客数	P. 12
5-2	【熊本県】	入国者数（熊本空港）	P. 13
5-3	【熊本県】	客室稼働率	P. 14
6	雇用		
6-1	【熊本県】	有効求人倍率（季節調整済）	P. 15
6-2	【熊本県】	常用雇用指数	P. 16
6-3	【熊本県】	雇用保険受給者実人員数	P. 17
7	金融		
7-1	【全 国】	為替レート（円／ドル）	P. 18
7-2	【全 国】	日経平均株価	P. 19
8	その他（参考）		
8-1	【熊本県】	気象（平均気温）	P. 20
8-2	【熊本県】	気象（降水量）	P. 21

《注》 「7 金融」のみ、全国のデータを引用しています。

移動年計

当月を含む過去1年(12か月)間の“合計値”を毎月算出したもの。
季節変動の影響を受けないため、上昇(又は下降)傾向のトレンドを把握する場合などに有用。

12か月後方移動平均

当月を含む過去1年(12か月)間の“平均値”を毎月算出したもの。
季節性を排したトレンド把握に有用な点では、移動年計と同じであるが、扱う数値が割合(%)の場合などは、こちらを利用。

1 消費・物価

1-1 百貨店・スーパー販売額（既存店）

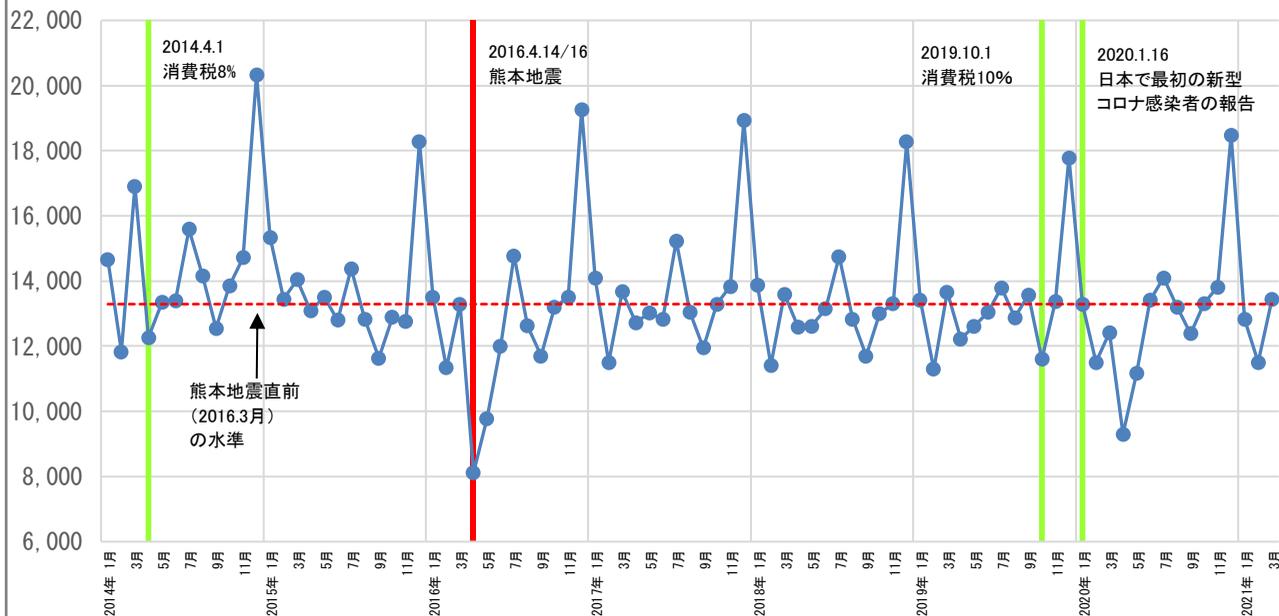
1 毎月の動き

- ◆ 地震のあった2016年4月と直後の5月の落ち込みが目立つ。また、コロナ禍の2020年4月も大きく落ち込んでいる。

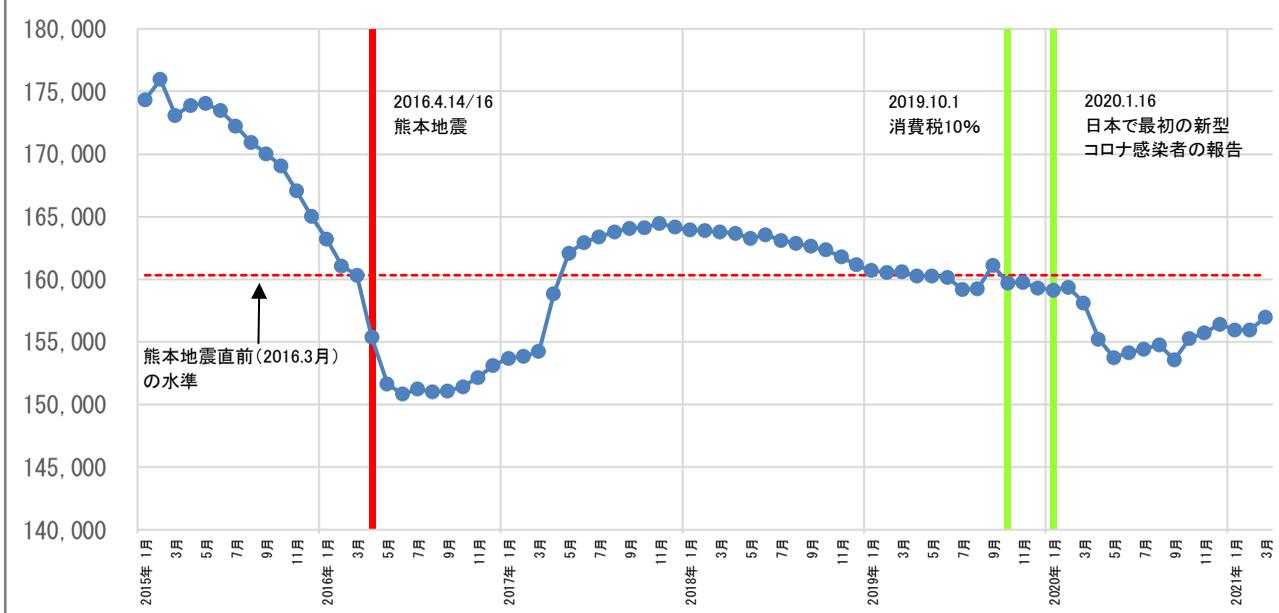
2 移動年計

- ◆ 地震後約1年間は、地震直前（2016年3月）の水準に届かない状態が続いていたが、2017年5月には地震前の水準を回復している。
- ◆ その後、全体的に下降トレンドで推移し、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年3～5月には大きく落ち込むも、2020年6月以降は回復傾向にある。

1-1 a. 百貨店・スーパー販売額（既存店） 毎月の動き [百万円]



1-1 b. 百貨店・スーパー販売額（既存店） 移動年計 [百万円]



百貨店・スーパー販売額

個人消費の代表的な景気指標。家計の“サイフのひもの締め具合”に関係し、景気への感度が高い。

1 消費・物価

1-2 乗用車登録台数

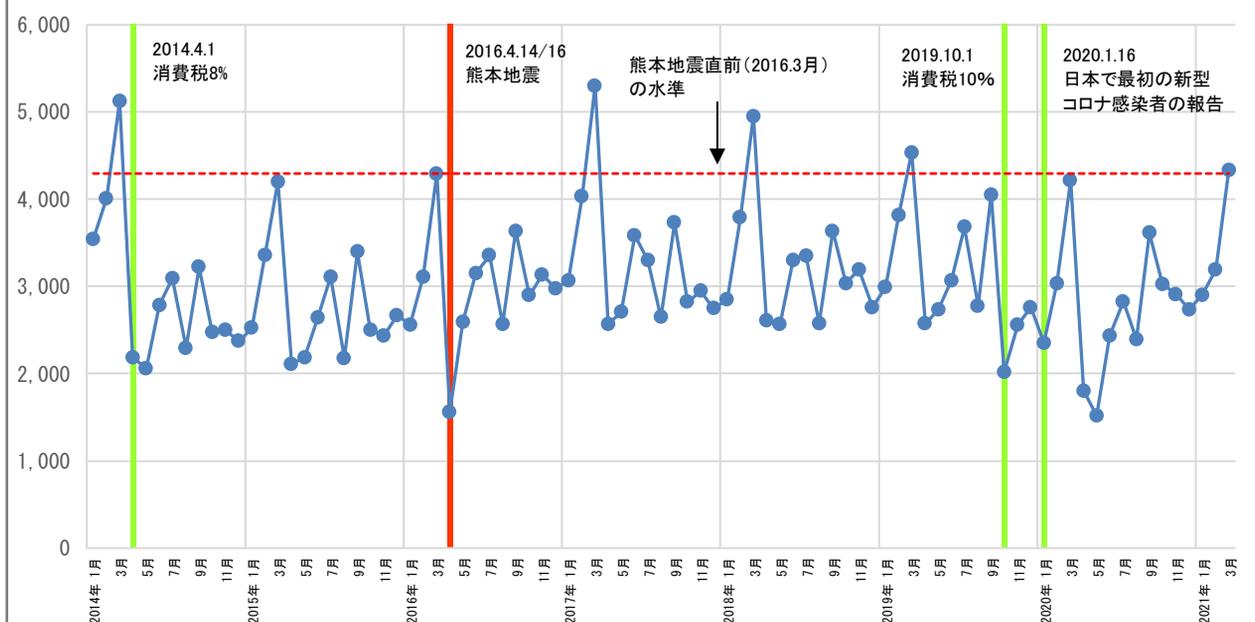
1 毎月の動き

- ◆ 地震のあった2016年4月の落ち込みが目立つ。また、コロナ禍の2020年4～5月も大きく落ち込んでいる。

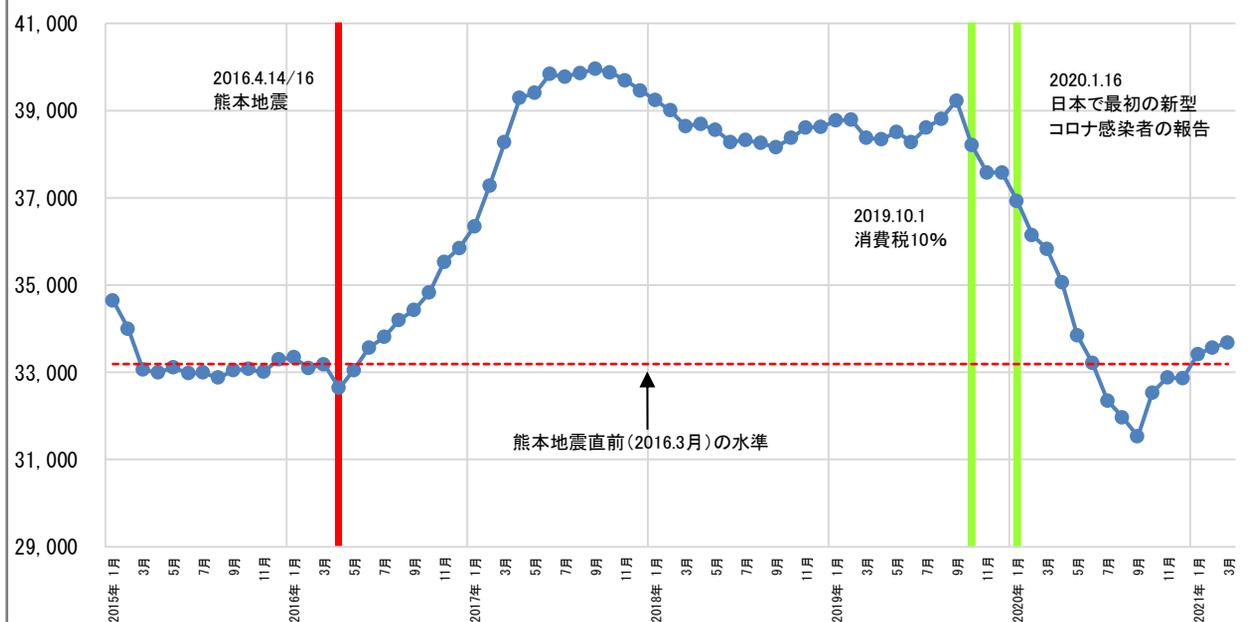
2 移動年計

- ◆ 地震後の2016年6月には、地震直前（2016年3月）の水準を上回った。
- ◆ 2016年6月～2017年春頃までは上昇傾向にあり、消費税増税（8%→10%）直前の2019年9月までは高い水準で推移している。その後、コロナ禍の影響もあり2020年9月まで下降傾向にあったが、同年10月以降は回復傾向にある。

1-2 a. 乗用車登録台数 毎月の動き [台]



1-2 b. 乗用車登録台数 移動年計 [台]



乗用車登録台数

個人消費の景気指標。高額な耐久消費財の1つである自動車の購入は景気への感度が高い。季節性があり、一般に、1年の中では、3月・9月の決算期に登録台数が増える傾向にある。

1 消費・物価

1-3 消費者物価指数（総合）

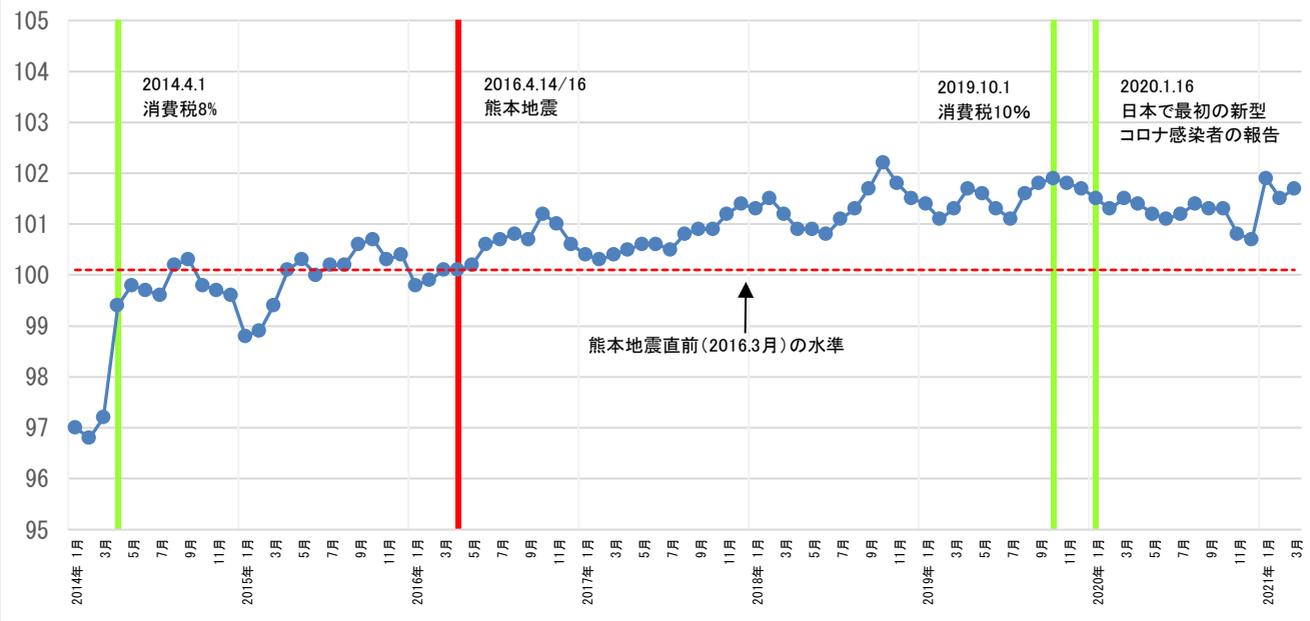
1 毎月の動き

◆ 地震直後の2016年5月以降は、全て地震直前（2016年3月）の水準を上回る状態となっている。

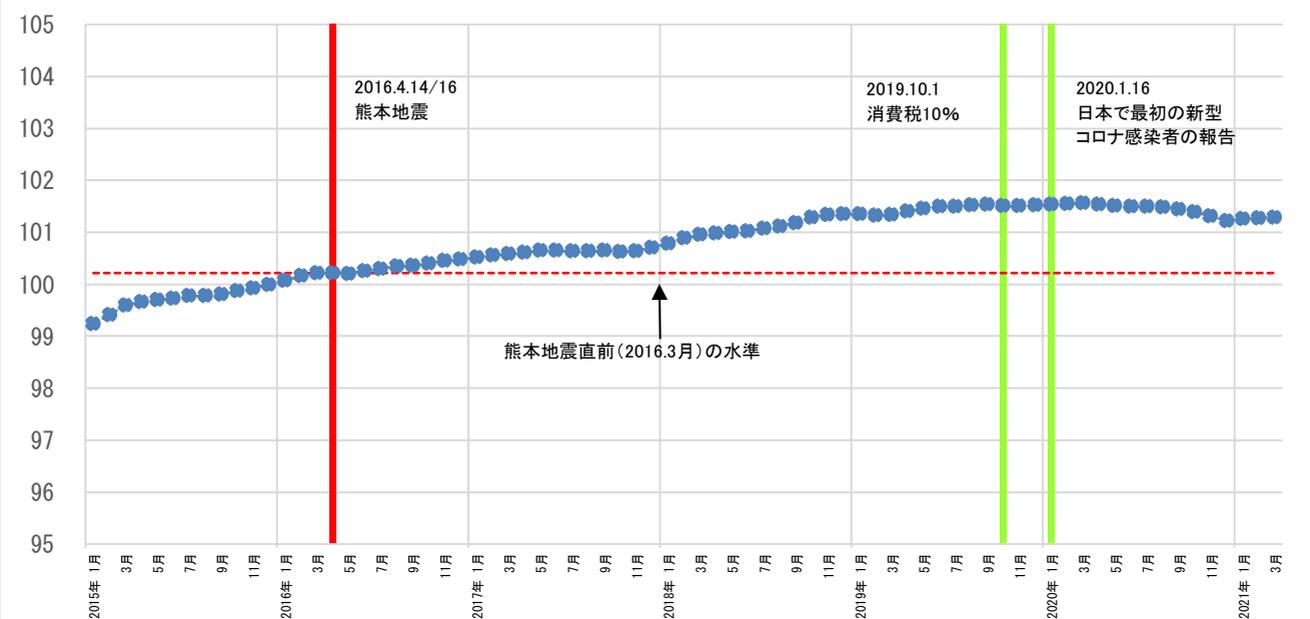
2 12か月後方移動平均

◆ 地震の前から2019年5月まで上昇傾向にあり、その後は、ほぼ横ばいで推移している。

1-3 a. 消費者物価指数（総合） 毎月の動き [2015年=100]



1-3 b. 消費者物価指数（総合） 12か月後方移動平均 [2015年=100]



消費者物価指数 (CPI: Consumer Price Index)

家計から見た”物価”を表す景気指標。一般に、上昇傾向であればインフレ、下降傾向であればデフレの状況にある。

2 投資

2-1 新設住宅着工戸数

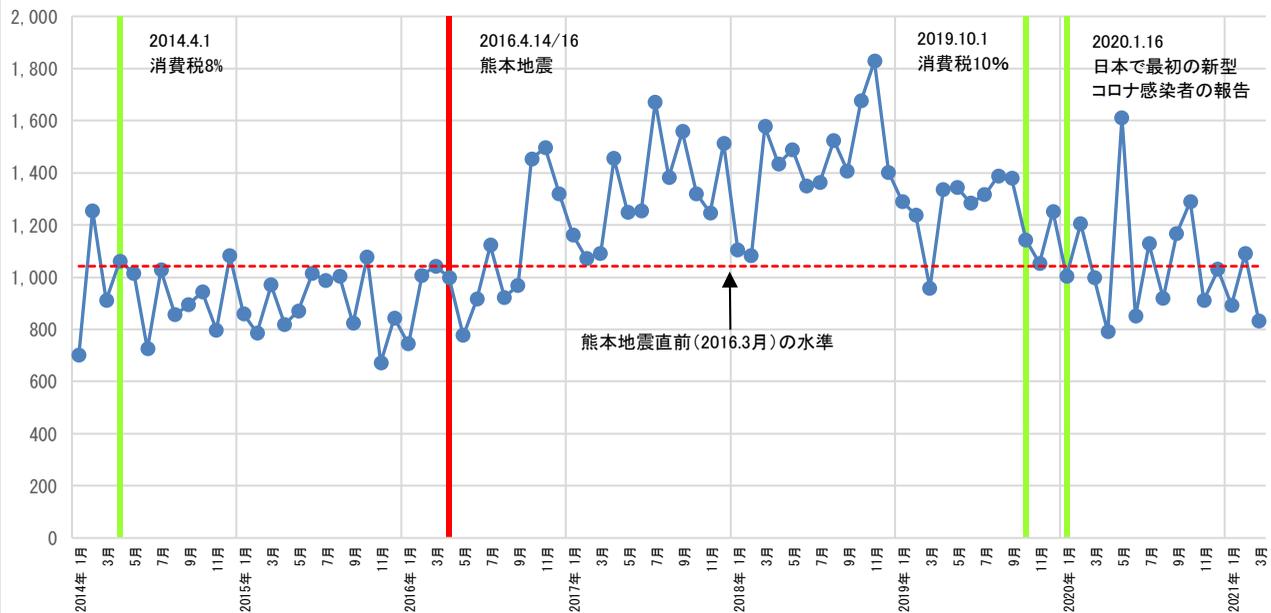
1 毎月の動き

- ◆ 地震後半年経った2016年10月から2019年12月までの約3年間で、2019年3月を除き、地震直前（2016年3月）の水準を全て上回っている。

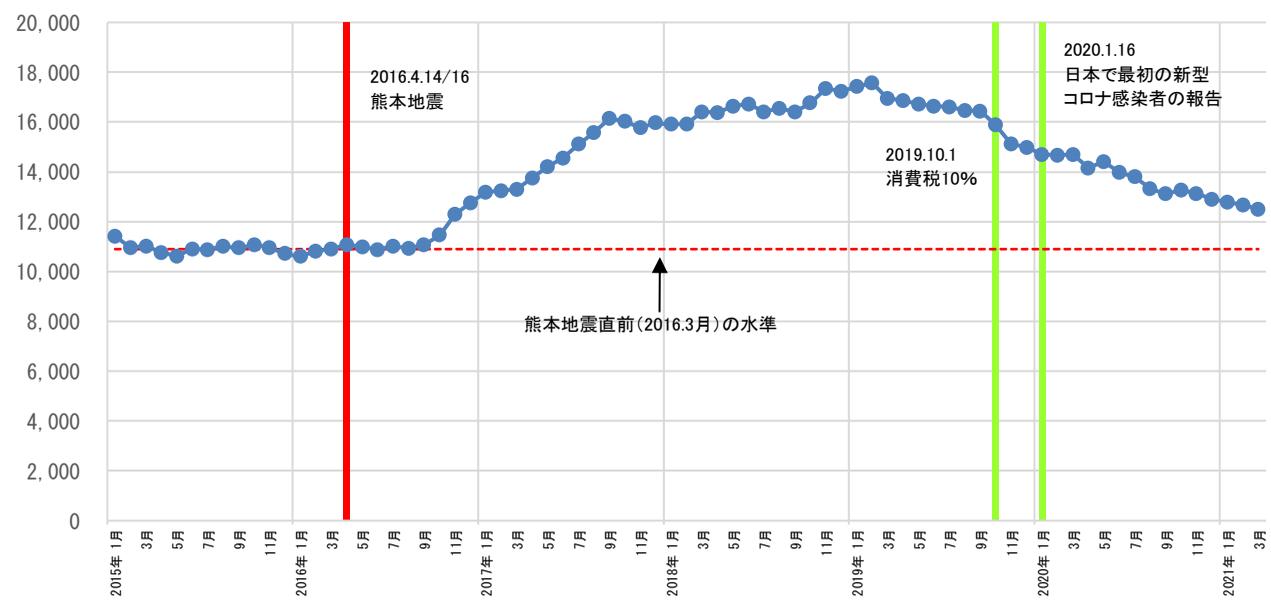
2 移動年計

- ◆ 地震後半年経った2016年10月から2019年3月までの約2年半の間、上昇傾向となっている。
- ◆ その後は、下降傾向に転じているものの、2021年3月においても、地震直前（2016年3月）の水準を上回った状態が続いている。

2-1 a. 新設住宅着工戸数 毎月の動き [戸]



2-1 b. 新設住宅着工件数 移動年計 [戸]



新設住宅着工戸数

住宅需要に対する景気指標。建築部材・電気・設備・家電など他業種との関連も大きく、景気への感度が高い。

2 投資

2-2 公共工事請負額

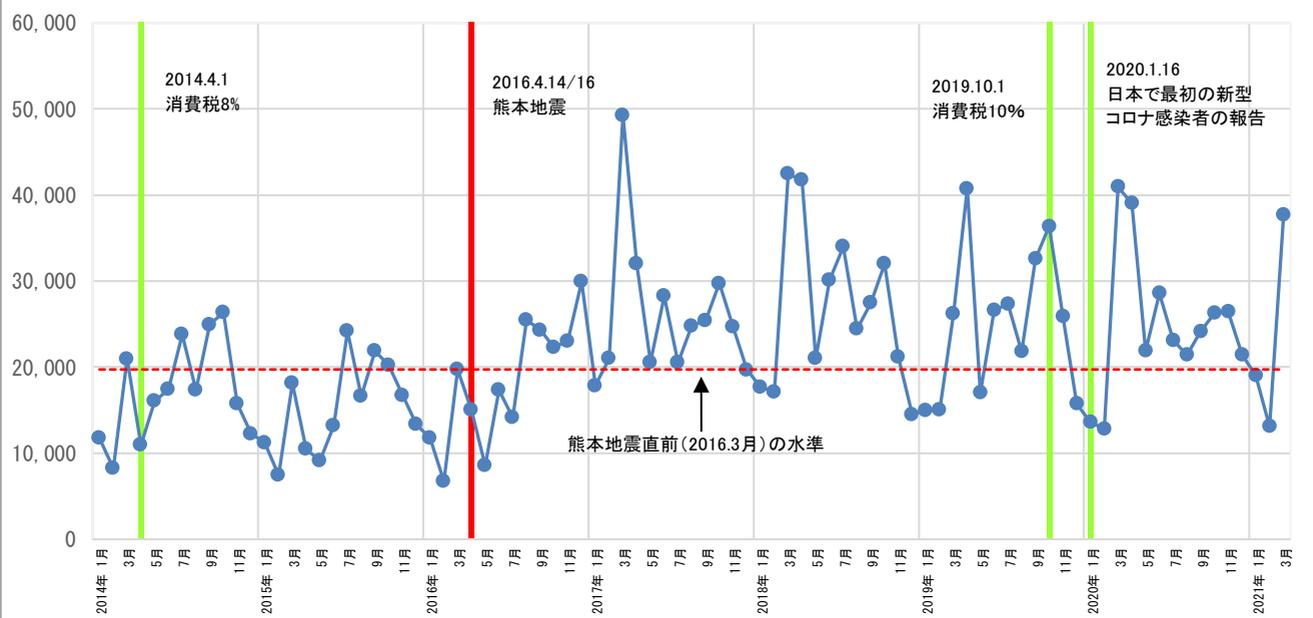
1 毎月の動き

◆ 地震後は、特に毎年3月（年度末）が大きく目立っている。

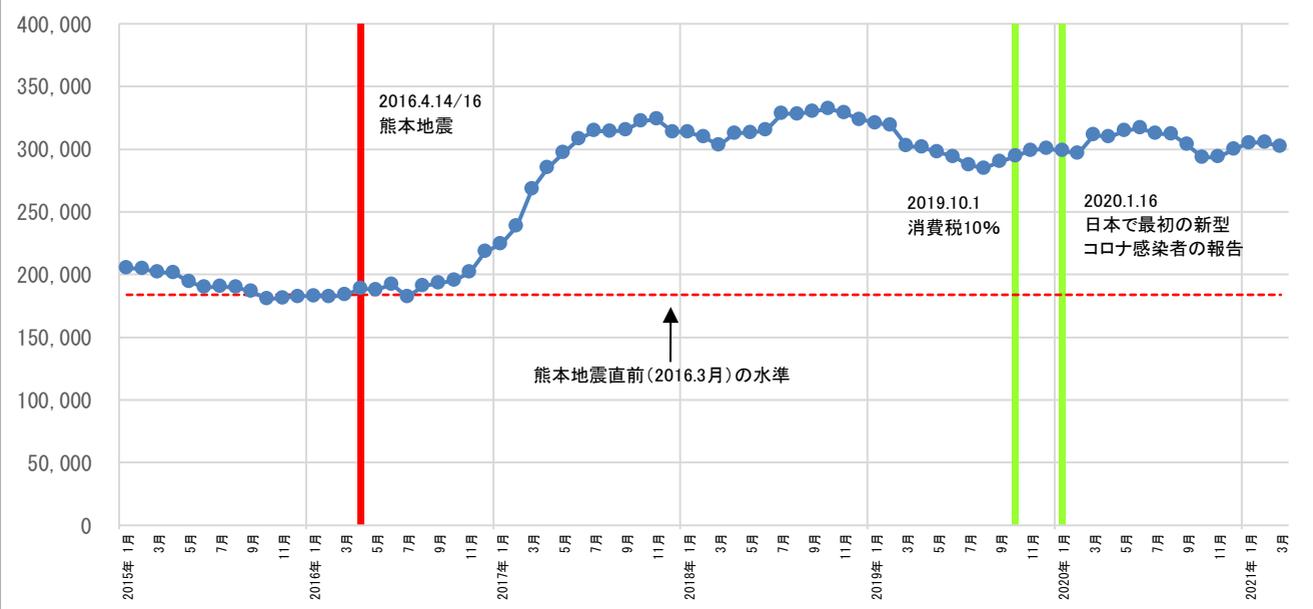
2 移動年計

◆ 2016年8月～2017年7月までの1年間は、大きく上昇傾向にあり、その後は、ほぼ横ばいで推移している。

2-2 a. 公共工事請負額 毎月の動き [百万円]



2-2 b. 公共工事請負額 移動年計 [百万円]



公共工事請負額

公共工事の発注動向を表す指標。国や地方公共団体の財政出動の規模を示す指標の1つでもある。

2 投資

2-3 建築着工床面積（非居住用）

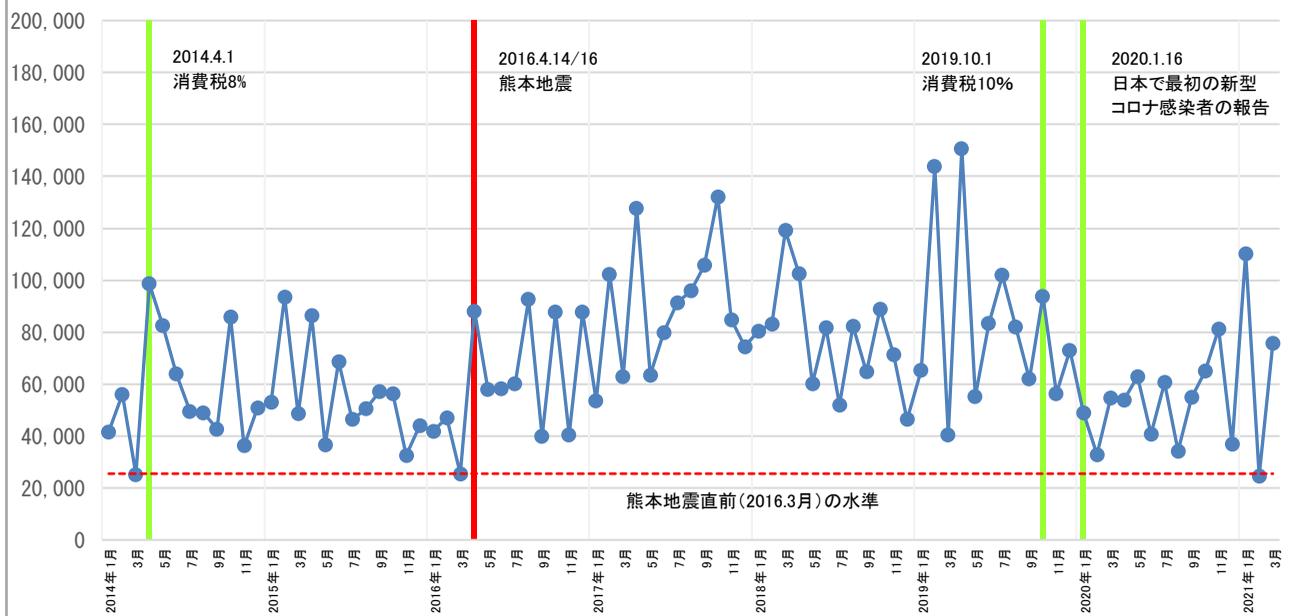
1 毎月の動き

- ◆ 地震のあった2016年4月から2021年3月までの5年間は、地震直前（2016年3月）の水準を全て上回っている。

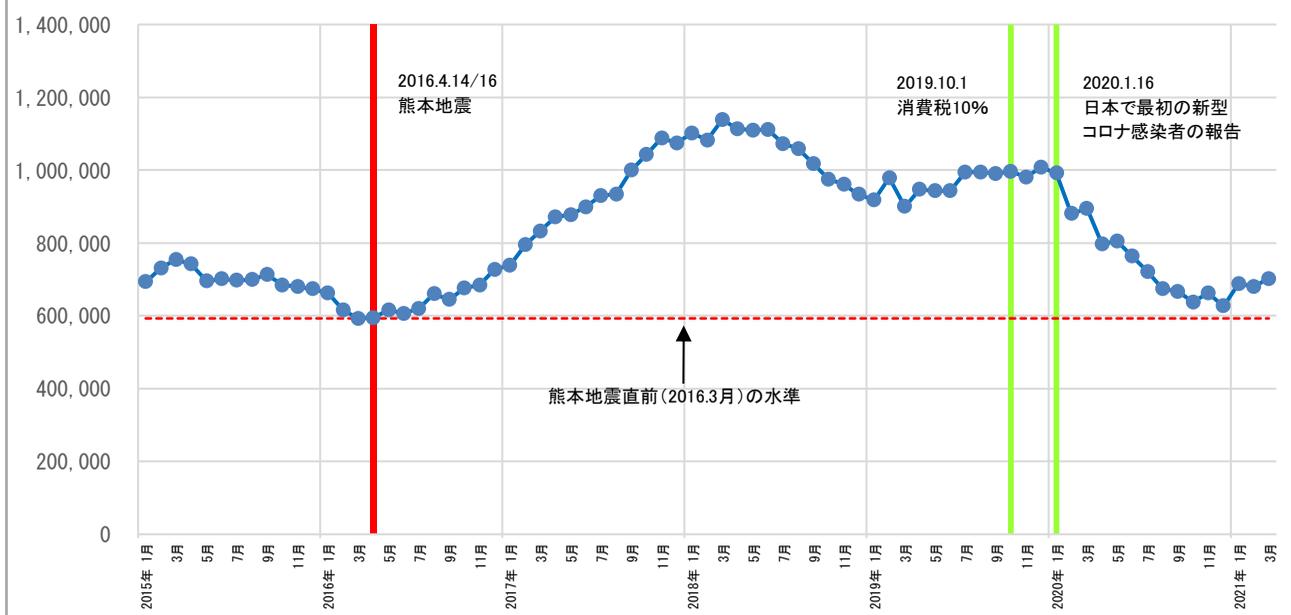
2 移動年計

- ◆ 2016年6月から2018年3月までの1年9か月の間は大きく上昇し、2020年1月までは緩やかに下降した後、横ばい状態で推移している。
- ◆ 2020年2月以降は、大きく下降するも、2021年3月においても、地震直前（2016年3月）の水準を上回った状態が続いている。

2-3 a. 建築着工床面積（非居住用） 毎月の動き [㎡]



2-3 b. 建築着工床面積（非居住用） 移動年計 [㎡]



建築着工床面積(非居住用)

事業用建物(店舗、事業所、ビル等)の需要に関連する景気指標。他業種との関わりも大きく、景気への感度が高い。

3 生産・企業倒産

3-1 鉱工業生産指数(季節調整済)

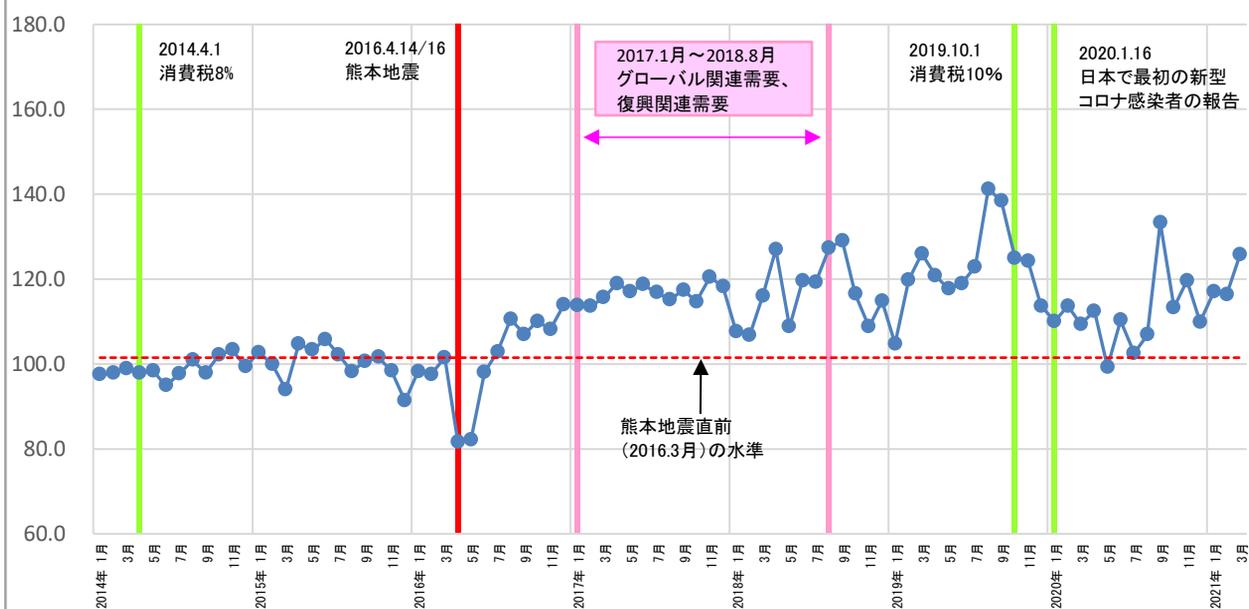
1 毎月の動き

- ◆ 地震のあった2016年4月と直後の5月は大きく落ち込んだものの、2016年7月～2021年3月までの4年9か月の間は、2020年5月を除き地震直前（2016年3月）の水準を全て上回っている。

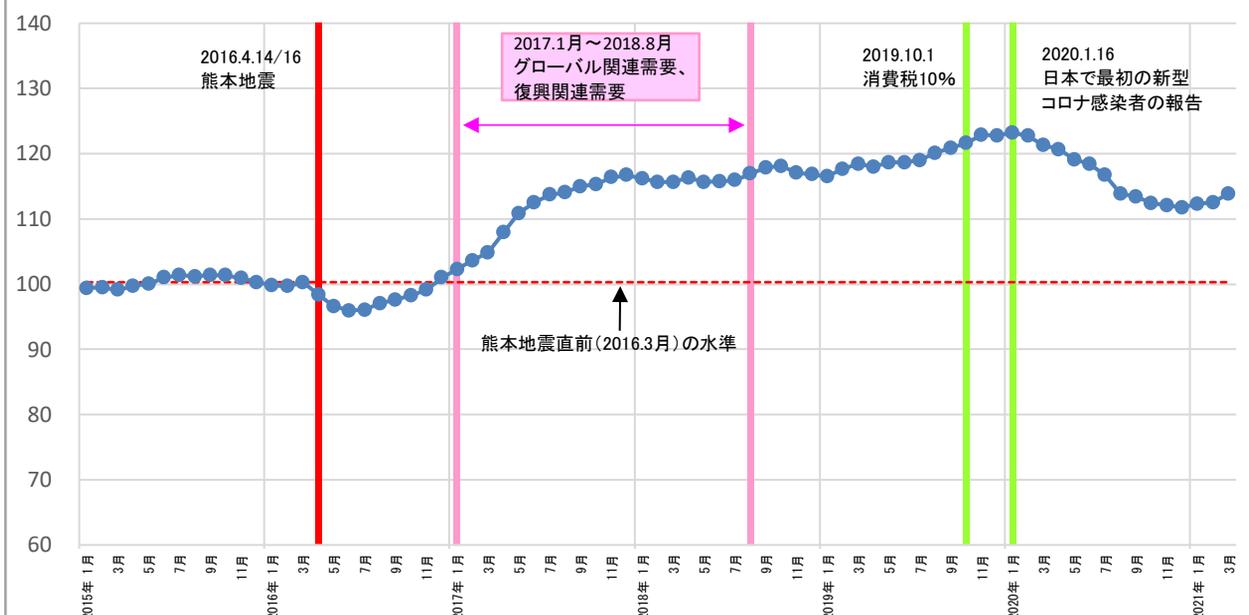
2 12か月後方移動平均

- ◆ 2016年8月から2020年1月までは、上昇傾向となっている。その後、2020年12月までは下降傾向にあったが、2021年1月以降は上昇傾向に転じ、2021年3月においても地震直前（2016年3月）の水準を上回った状態が続いている。

3-1 a. 鉱工業生産指数（季節調整済）毎月の動き [2015年=100]



3-1 b. 鉱工業生産指数（季節調整済）12か月後方移動平均 [2015年=100]



鉱工業指数 (IIP: Indices of Industrial Production)

製造業の生産活動を表す景気指標。生産、出荷、在庫等数種類の指数がある。
 国の鉱工業指数は株価にも影響を与えているほど有名な景気指標。通常、生産指数、出荷指数の動きを見ることが多い。

3 生産・企業倒産

3-2 企業倒産負債総額

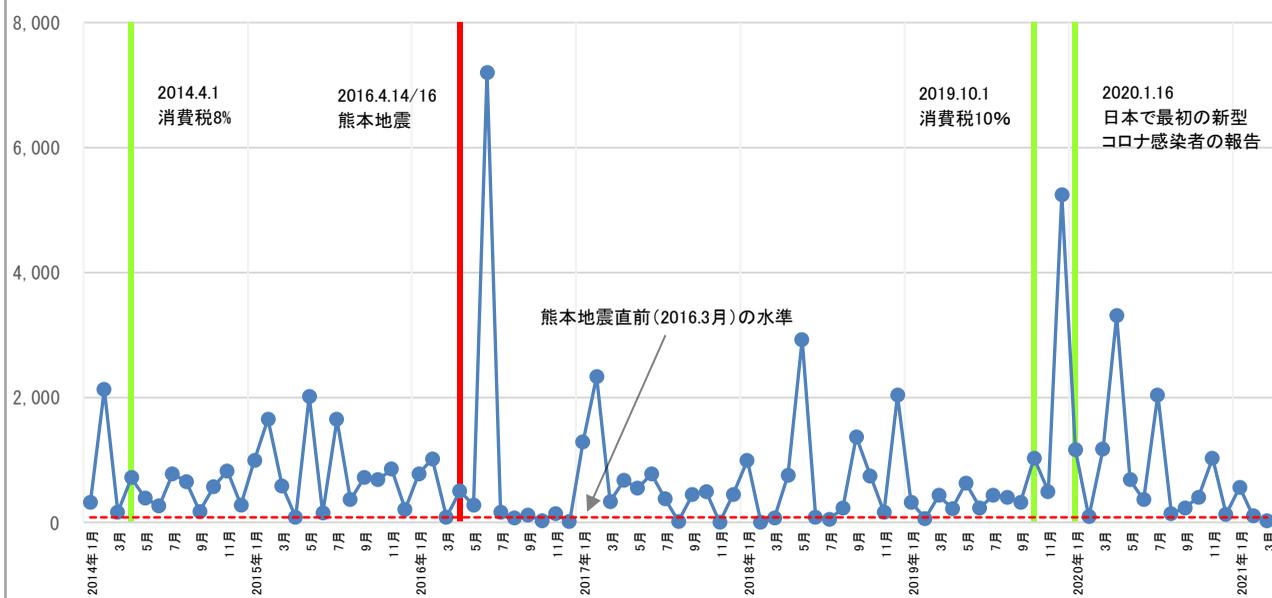
1 毎月の動き

- ◆ 大型倒産（不動産業）のあった2016年6月が突出して高い数値となっている。

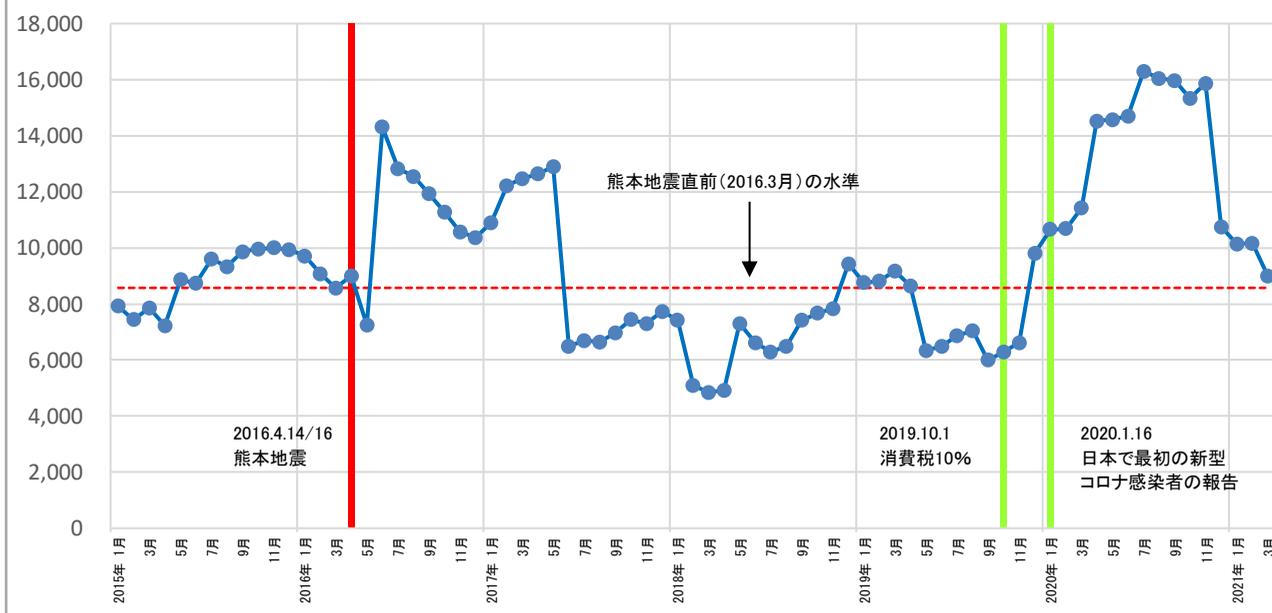
2 移動年計

- ◆ 2016年6月の数値の影響が大きいため、2017年5月までの1年間は、地震直前（2016年3月）の水準を大きく超える状態となっている。その後、2019年11月まで、概ね地震直前（2016年3月）を下回る水準で推移している。
- ◆ 2019年12月以降は、地震直前（2016年3月）の水準を上回る状態が続き、コロナ禍の2020年4～11月の8か月間は、地震直後を上回る状態となっている。

3-2 a. 企業倒産負債総額 毎月の動き [百万円]



3-2 b. 企業倒産負債総額 移動年計 [百万円]



企業倒産負債総額

好況期には倒産が減少、不況期には倒産が増加。企業倒産負債総額を見ると、景気に与えるインパクトの大きさが分かる。

4 貿易

4-1 輸出額

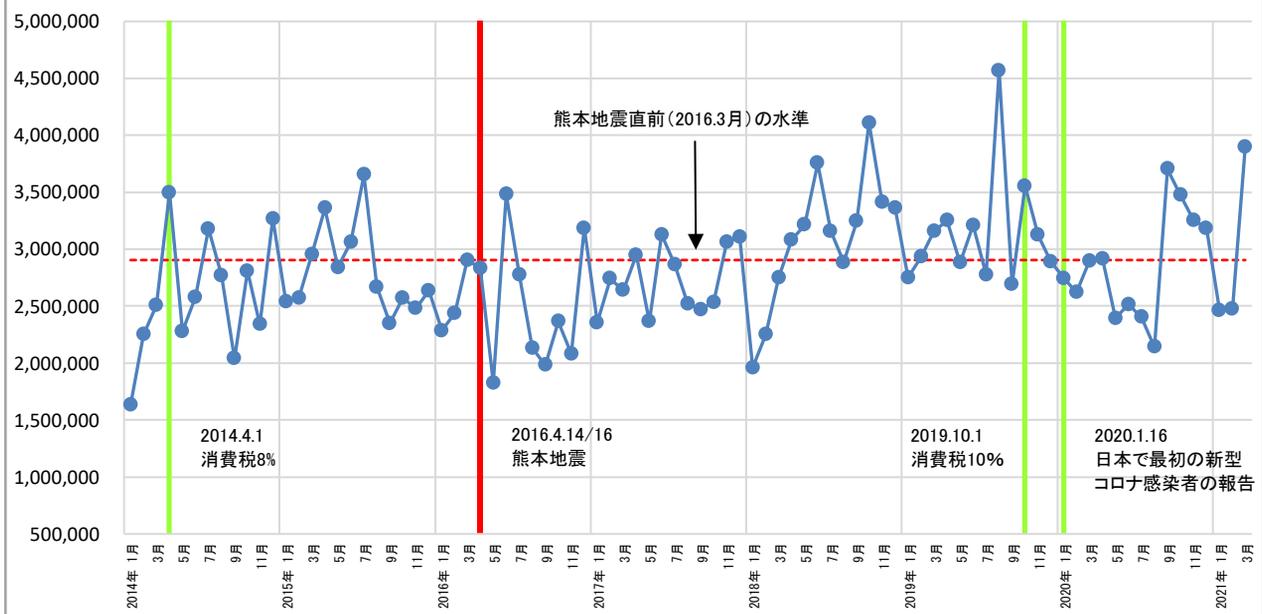
1 毎月の動き

- ◆ 地震直後の6月、2018年6・10月及び2019年8月が高い数値となっている。

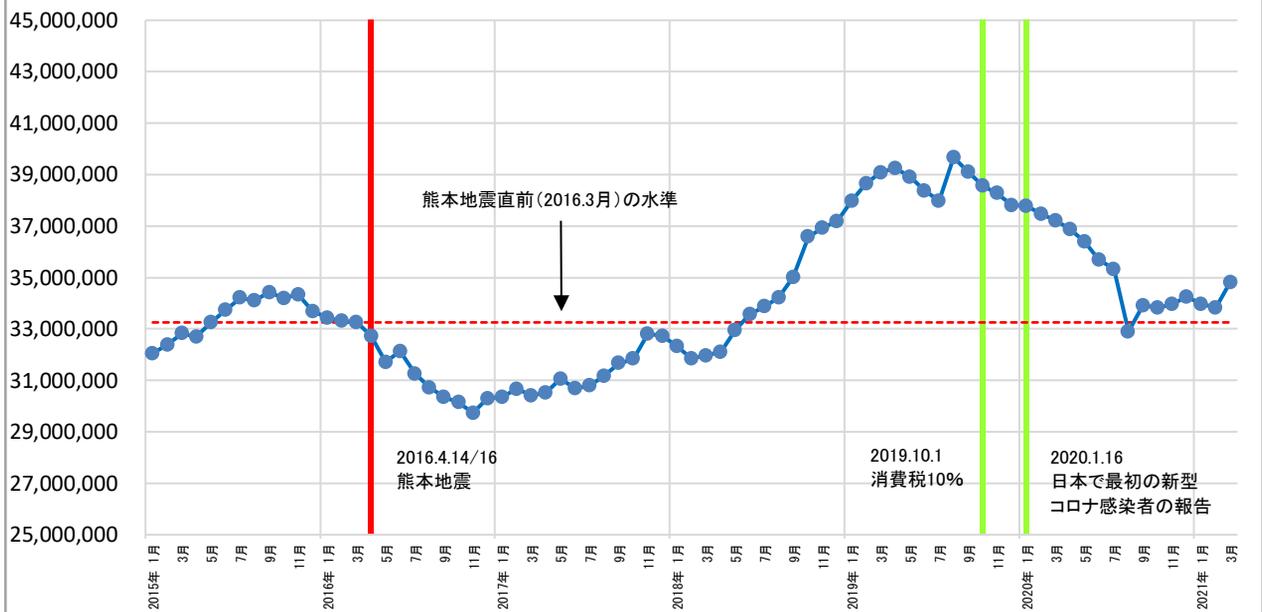
2 移動年計

- ◆ 地震後2016年11月までは下降傾向に、以後2019年8月までは波はあるものの概ね上昇傾向にあった。その後は転じて2020年8月まで下降傾向となり、同年9月以降はほぼ横ばいとなっている。
- ◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、2018年5月までそれを下回る水準で推移していたが、以後は2020年8月を除き、全て上回る水準で推移している。

4-1 a. 輸出額 毎月の動き [千円]



4-1 b. 輸出額 移動年計 [千円]



輸出額

ここでは、熊本県内の主な5つの港(左記※参照)において直接海外に輸出されるものの金額のこと。電気機器、一般機器、ゴム製品、金属鉱及びくず、木材等が主な輸出品目。アジア向け輸出が多い。

4 貿易

4-2 輸入額

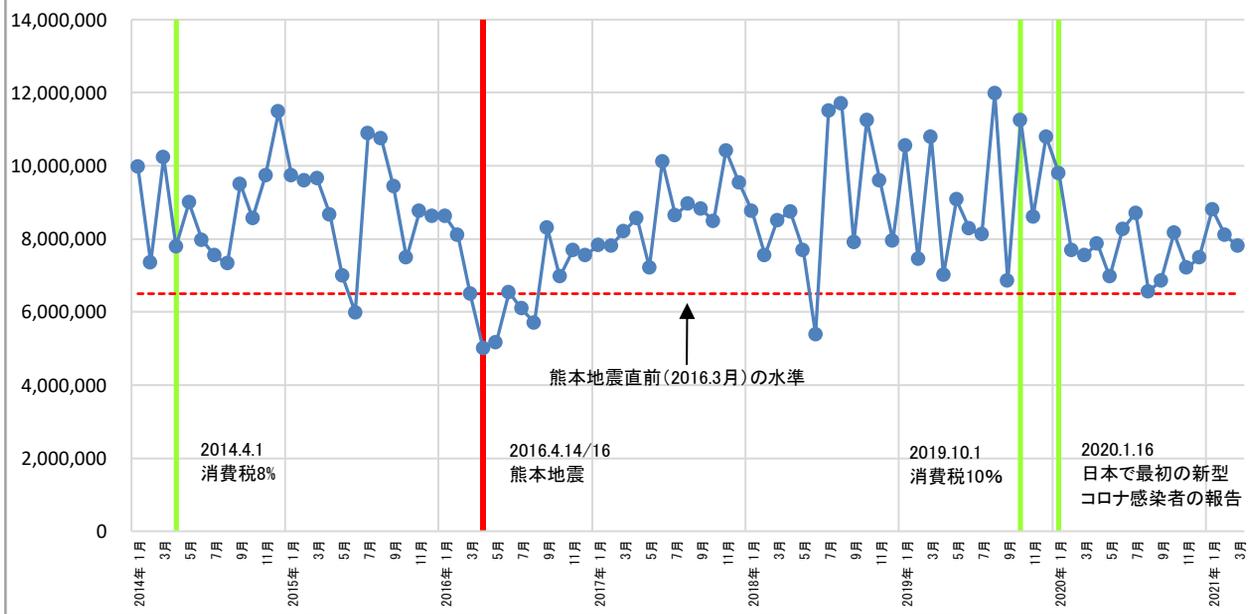
1 毎月の動き

- ◆ 2016年9月以降は、2018年6月を除き、全て地震直前（2016年3月）の水準を上回っている。

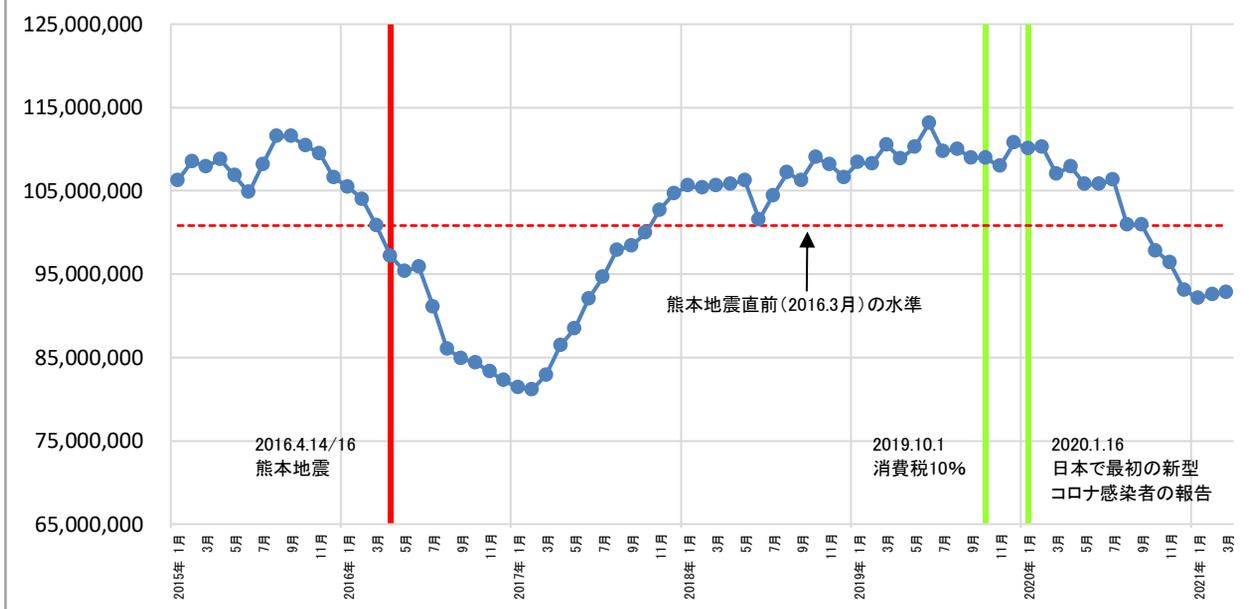
2 移動年計

- ◆ 地震後2017年2月までは下降傾向で、以後2019年6月までは概ね上昇傾向となったが、その後は再び下降傾向にある。
- ◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、2017年10月まで下回り、以後2020年9月まで上回る水準で推移し、同年10月以降は再び下回る水準が続いている。

4-2 a. 輸入額 毎月の動き [千円]



4-2 b. 輸入額 移動年計 [千円]



輸入額

ここでは、熊本県内の主な5つの港(上記※参照)において直接海外から輸入されるものの金額のこと。鉄鋼、木製建具及び建築用木工品、石炭、穀物及び同調整品等が主な輸入品目。世界各地から広く輸入。

5 観光

5-1 延べ宿泊者数

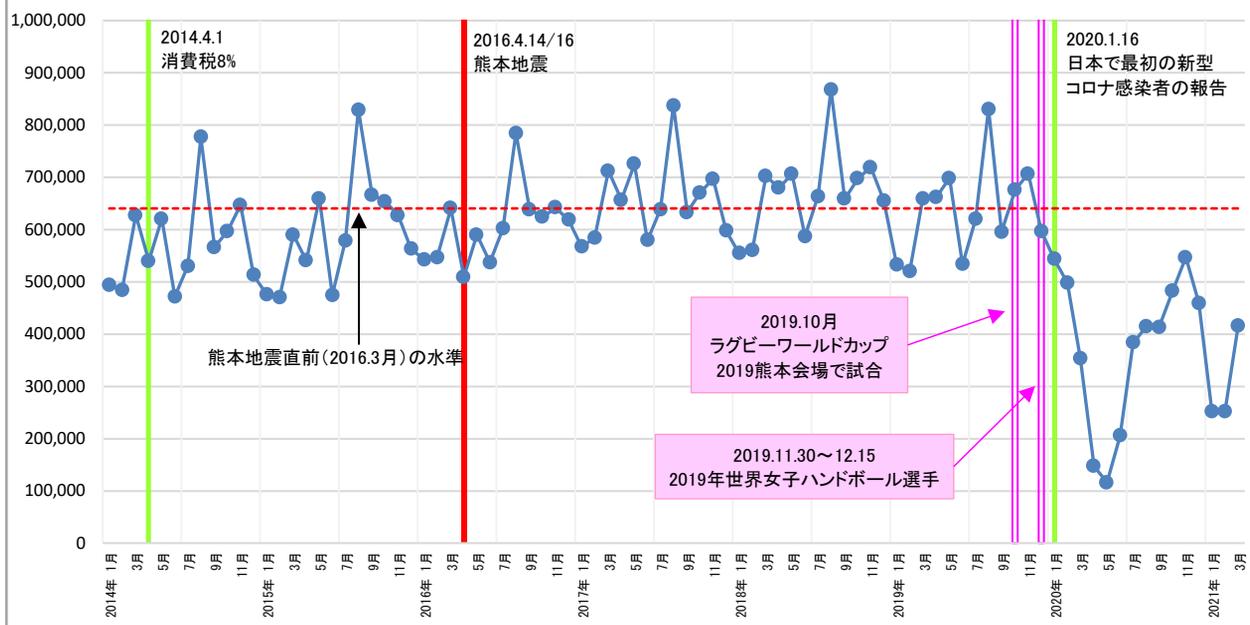
1 毎月の動き

- ◆ 夏休みの影響か毎年8月の数値が大きく目立っている。

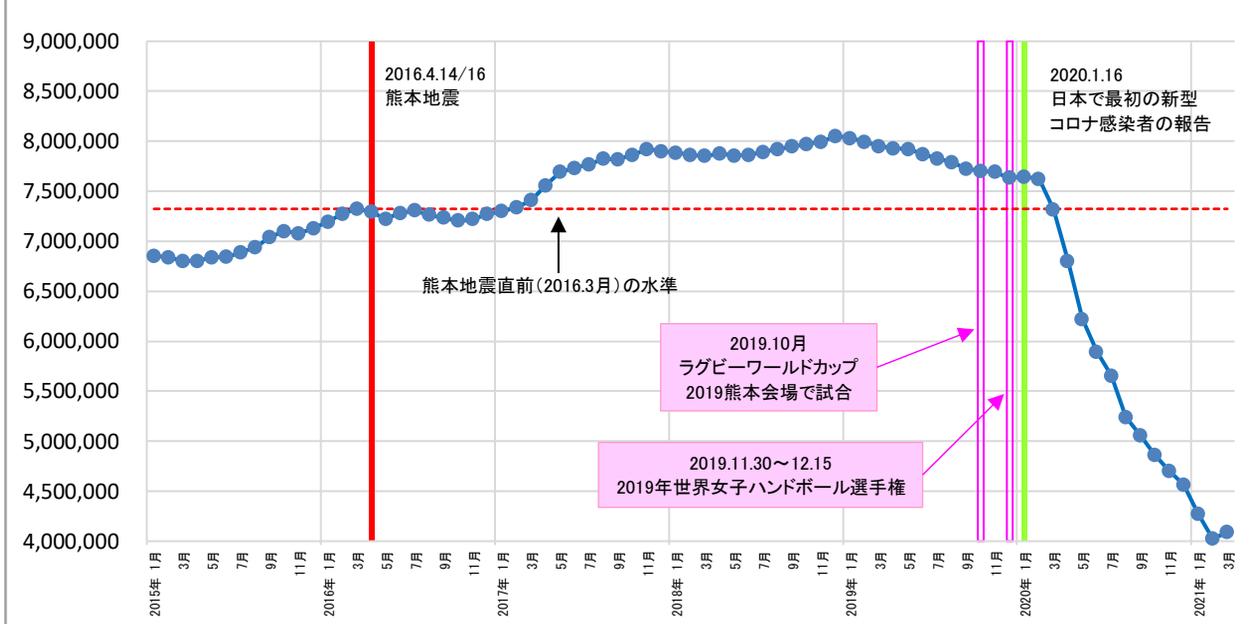
2 移動年計

- ◆ 地震後2017年3月までは横ばい状態、以後2018年12月までは緩やかな上昇傾向にあった。その後2020年2月まで緩やかな下降傾向が続き、同年3月以降は、コロナ禍の影響もあり、急激な落ち込みとなっている。
- ◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、2020年2月まではそれとほぼ同じか上回る水準で推移していたが、同年3月以降はそれを下回る水準が続いている。

5-1 a. 延べ宿泊客数 毎月の動き [人]



5-1 b. 延べ宿泊者数 移動年計 [人]



延べ宿泊客数

外国人客も含む景気指標。ビジネスでの宿泊客も含む。大規模イベントや為替レートの影響により増減することもある。季節性があり、例年8月が多く、1月が少ない傾向にある。

5 観光

5-2 入国者数(熊本空港)

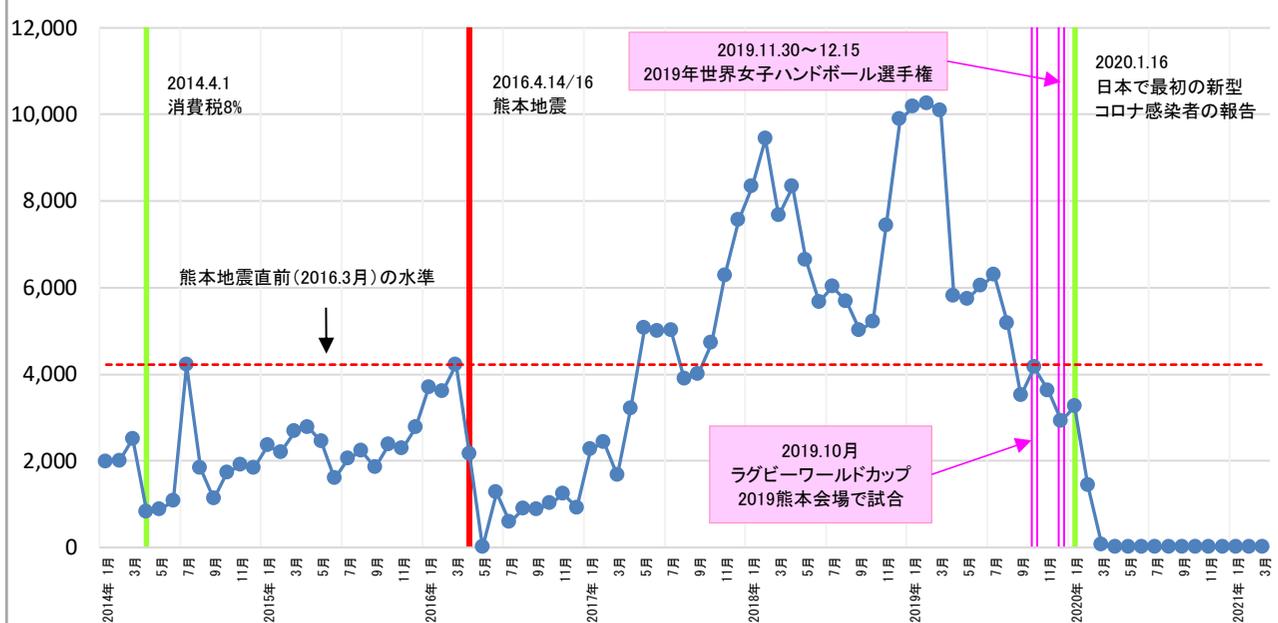
1 毎月の動き

- ◆ 2017年5月～2019年8月までは、地震直前（2016年3月）の水準をほぼ上回る一方、他は同水準以下となっている。コロナ禍の2020年3月以降、外国人の入国規制等の影響もあり、熊本空港からの入国者は0人の状態が続いている。

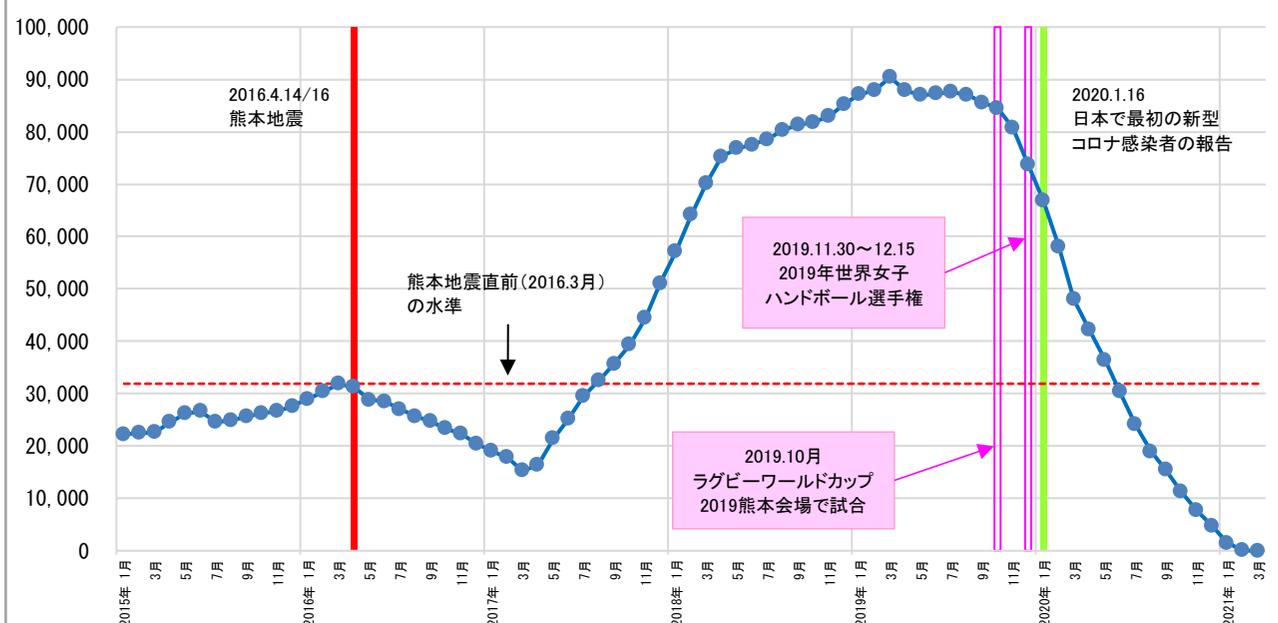
2 移動年計

- ◆ 地震後2017年3月までは下降傾向にあるも、以後2019年3月までは急激な上昇傾向に転じた。その後2019年10月まで横ばい状態となり、同年11月以降はコロナ禍の影響も加わり、急激な下降傾向となっている。
- ◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、2017年8月から2020年5月までの約3年弱の間は、それを上回る水準となっている。

5-2 a. 入国者数（熊本空港） 毎月の動き [人]



5-2 b. 入国者数（熊本空港） 移動年計 [人]



入国者数

インバウンド関係の景気指標。熊本県の指標は熊本空港から直接入国した外国人の数。全国の指標は全国の港と空港から入国した外国人の数。大規模イベントや為替レートの影響により増減することもある。

5 観光

5-3 客室稼働率

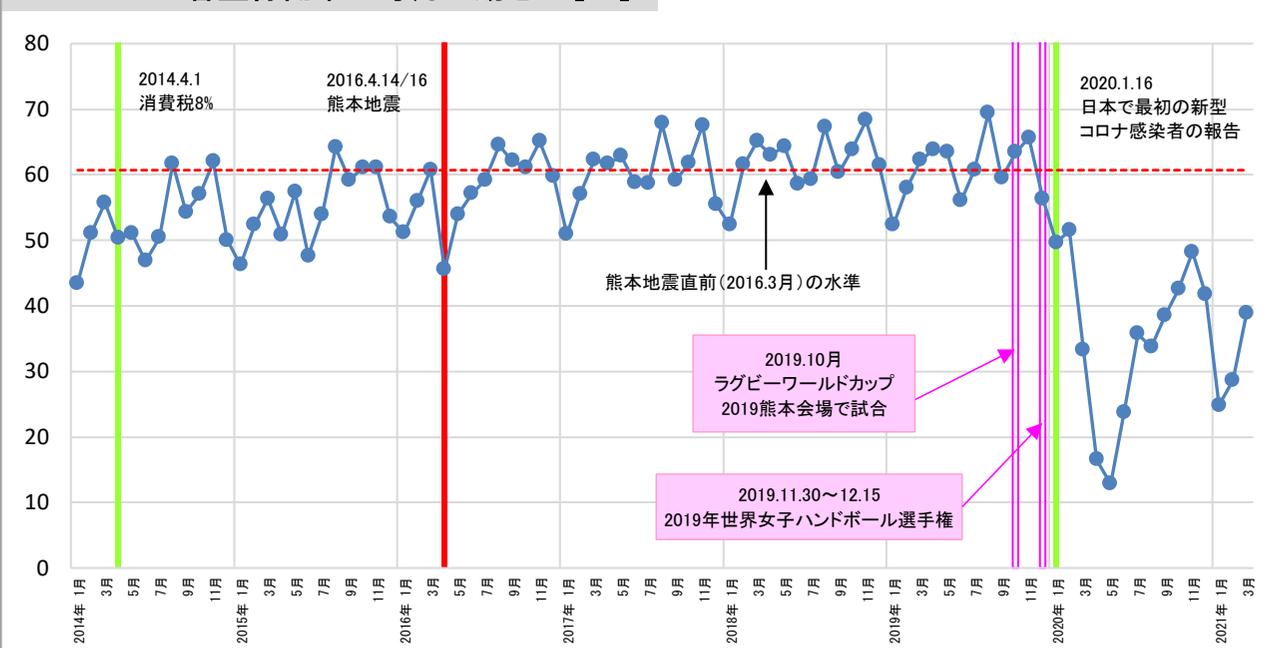
1 毎月の動き

- ◆ 月によりバラツキはあるが、地震の前も後もコロナ禍になる前（2020年12月）までは、50~70%程度となっている。コロナ禍の2020年5月には大きく落ち込んだが、「GoToトラベル」などの影響もあってか、同年11月には50%弱まで回復した。なお、その後は一進一退の状況にある。

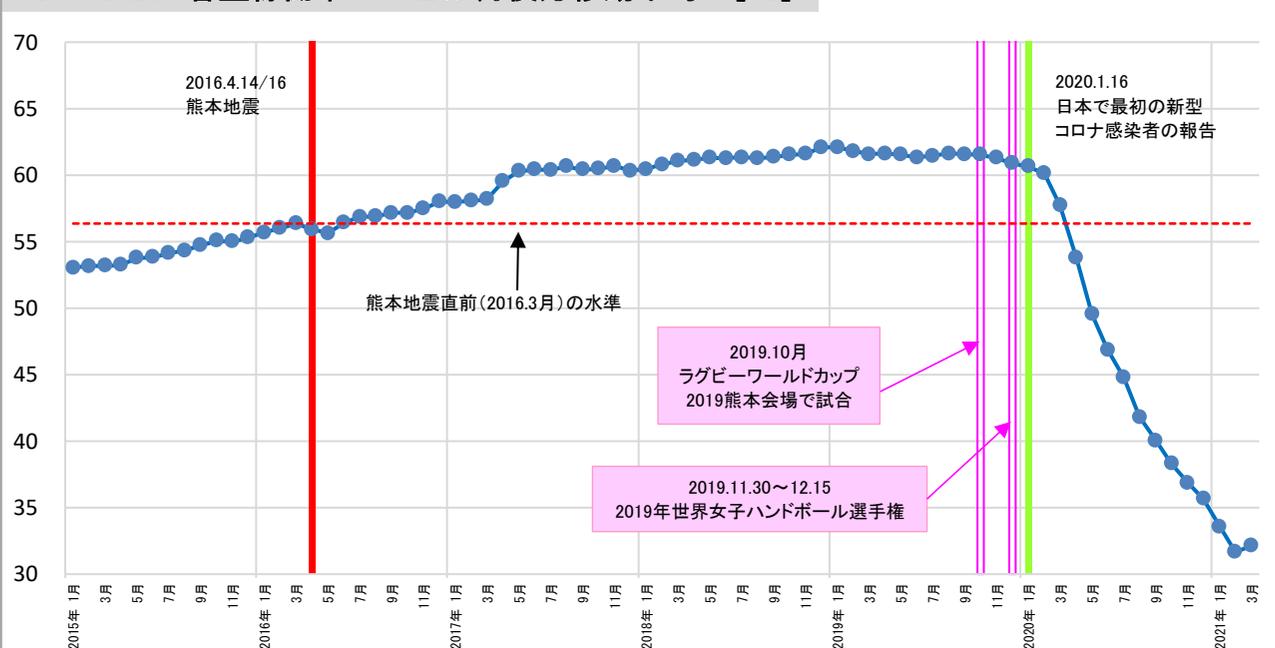
2 12か月後方移動平均

- ◆ 地震後2019年2月までは上昇傾向に、以後2020年1月までは横ばい状態にあったが、同年3月以降はコロナ禍の影響もあり急激な落ち込みとなっている。
- ◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、2020年3月までは、それとほぼ同じか上回る水準となっていたが、同年4月以降はそれを下回る水準が続いている。

5-3 a. 客室稼働率 毎月の動き [%]



5-3 b. 客室稼働率 12か月後方移動平均 [%]



客室稼働率

宿泊施設の観光・ビジネス需要に関する景気指標。大規模イベント、国際会議の開催等の影響により増減することもある。季節性があり、例年8月が高く、1月が低い傾向にある。

6 雇用

6-1 有効求人倍率(季節調整済)

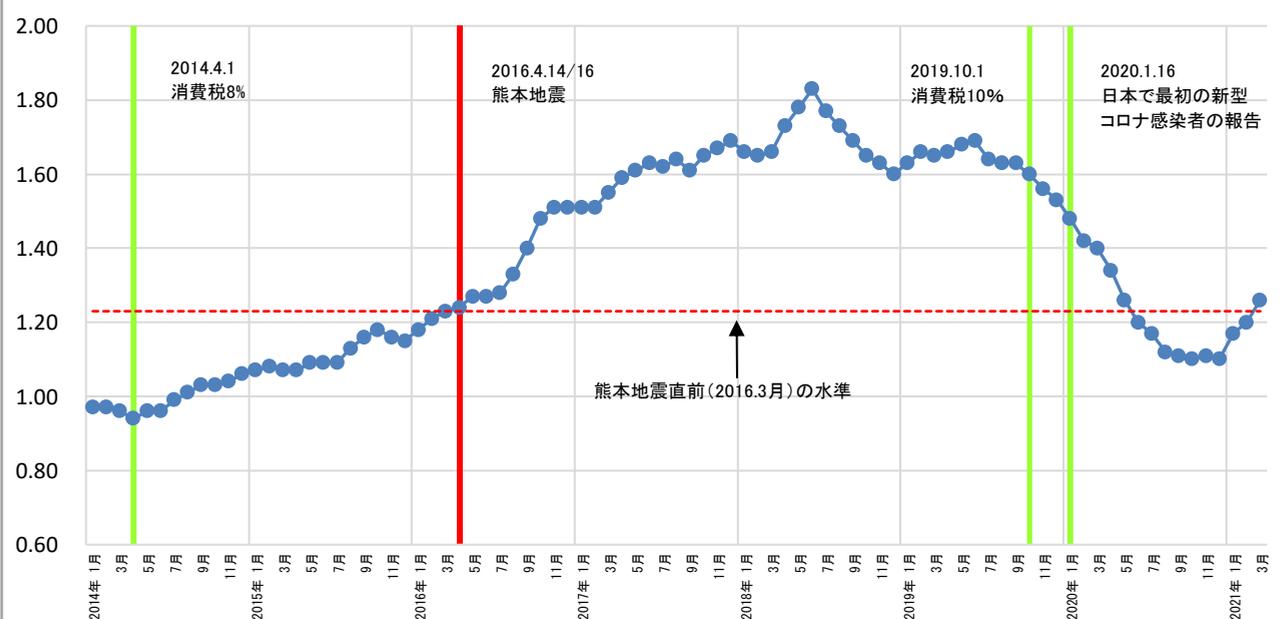
1 毎月の動き

- ◆ 地震のあった2016年4月から2020年5月までは、地震直前（2016年3月）の水準を上回る状態が続いていたが、コロナ禍の2020年6月から2021年2月までは、それを下回る状態が続き、同年3月に再びそれを上回る状態となった。

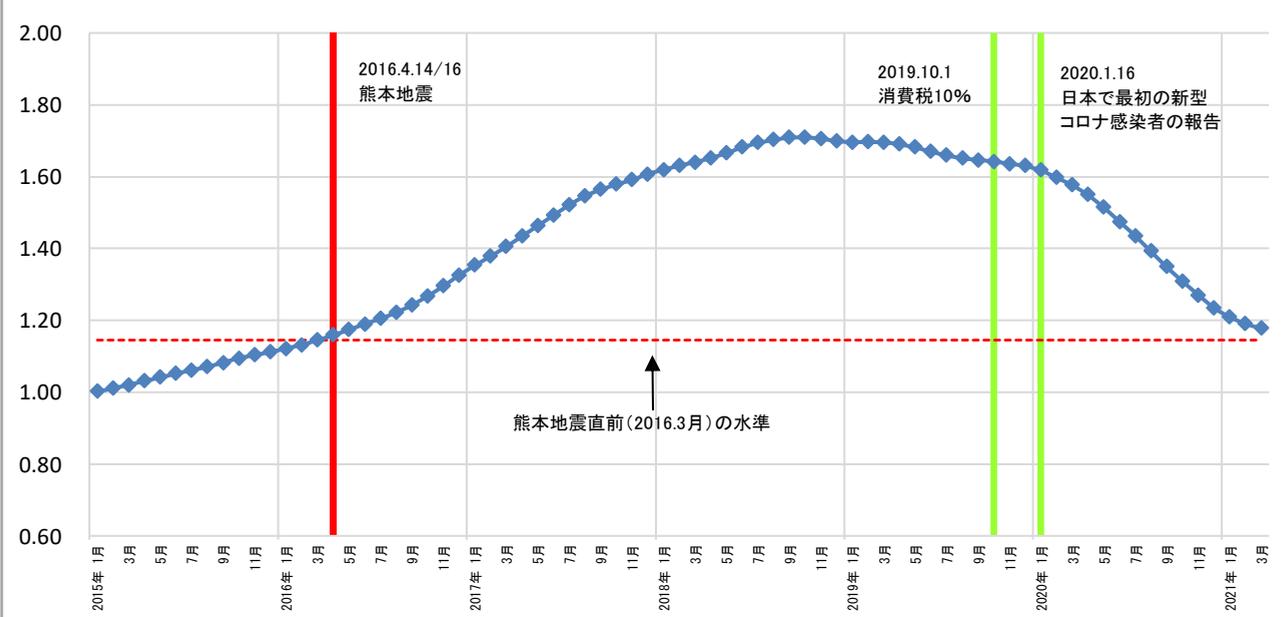
2 12か月後方移動平均

- ◆ 地震後2018年10月までは上昇傾向に、以後2020年1月までは緩やかな下降傾向にあった。その後はコロナ禍の影響もあり、急激な落ち込みとなっている。
- ◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、地震のあった2016年4月以降、全てそれを上回る水準が続いている。

6-1 a . 有効求人倍率（季節調整済） 毎月の動き [倍]



6-1 b . 有効求人倍率（季節調整済） 12か月後方移動平均 [倍]



有効求人倍率

労働市場の需給動向の指標。好況期には倍率が高くなり(売手市場となり)、不況期には倍率が低くなる(買手市場となる)。

6 雇用

6-2 常用雇用指数

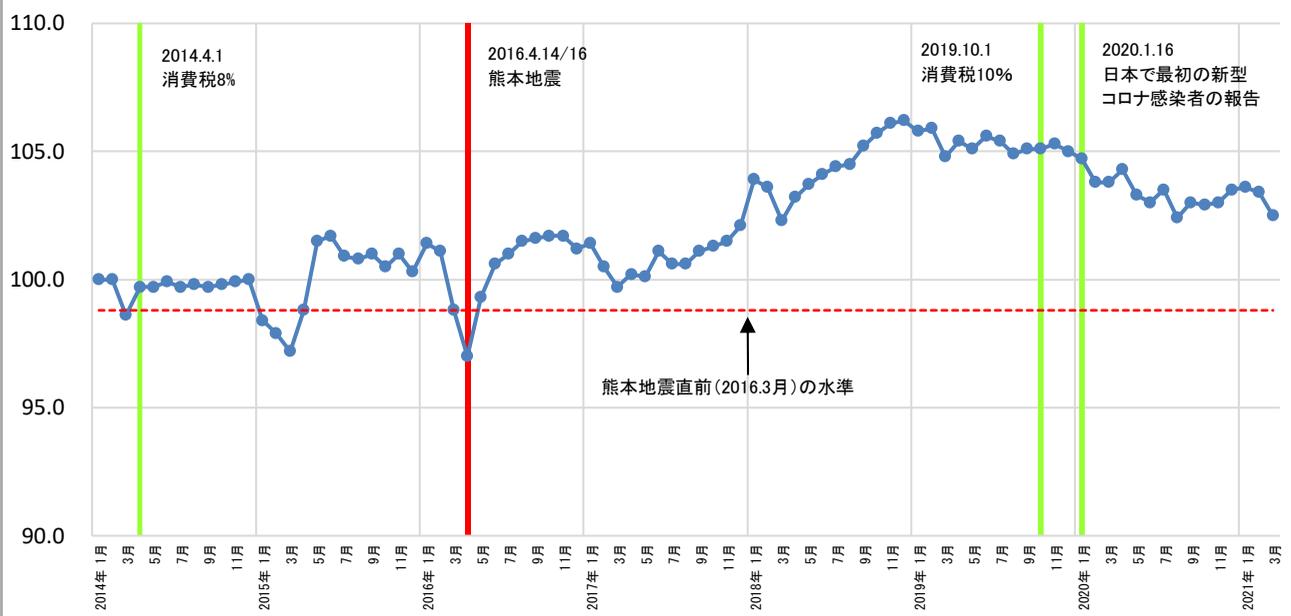
1 毎月の動き

- ◆ 地震直後の2016年5月以降、地震直前（2016年3月）の水準を上回る状態が続いている。

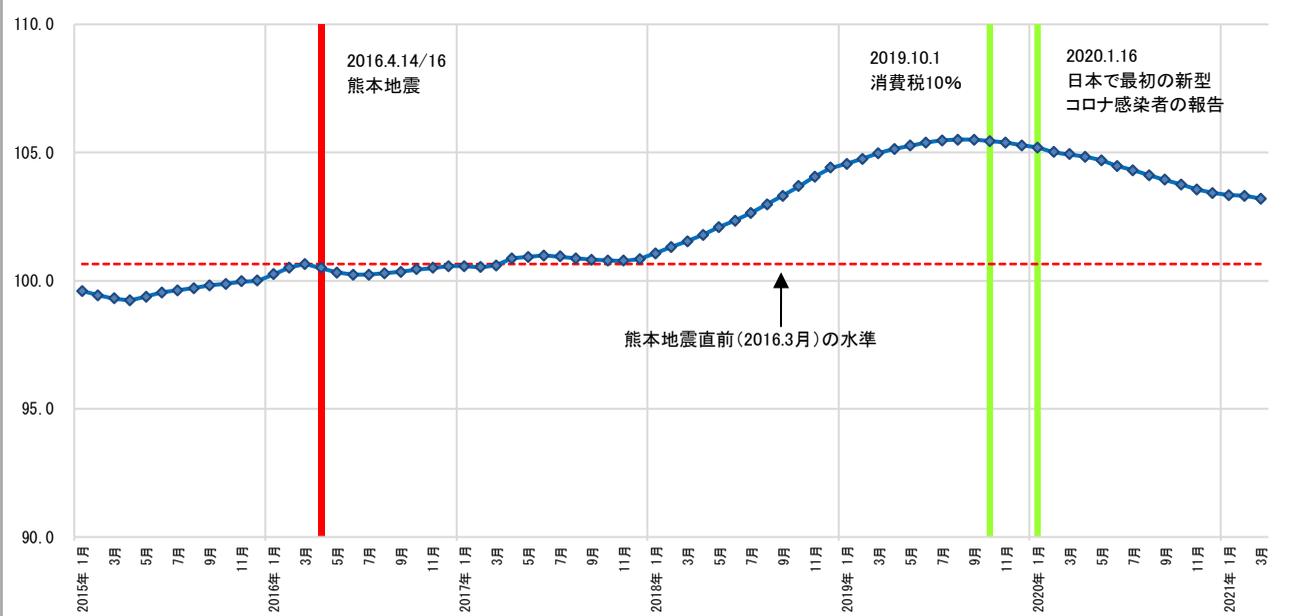
2 12か月後方移動平均

- ◆ 地震後2017年12月までは横ばい状態に、2018年1月から2019年9月までは上昇傾向にあった。その後は緩やかな下降傾向が続いている。
- ◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、2018年1月以降はそれを上回る水準が続いている。

6-2 a. 常用雇用指数 毎月の動き [2015年=100]



6-2 b. 常用雇用指数 12か月後方移動平均 [2015年=100]



常用雇用指数

雇用動向を表す指標。正職員をはじめ、パート、アルバイト等も含まれる。

6 雇用

6-3 雇用保険受給者実人員数

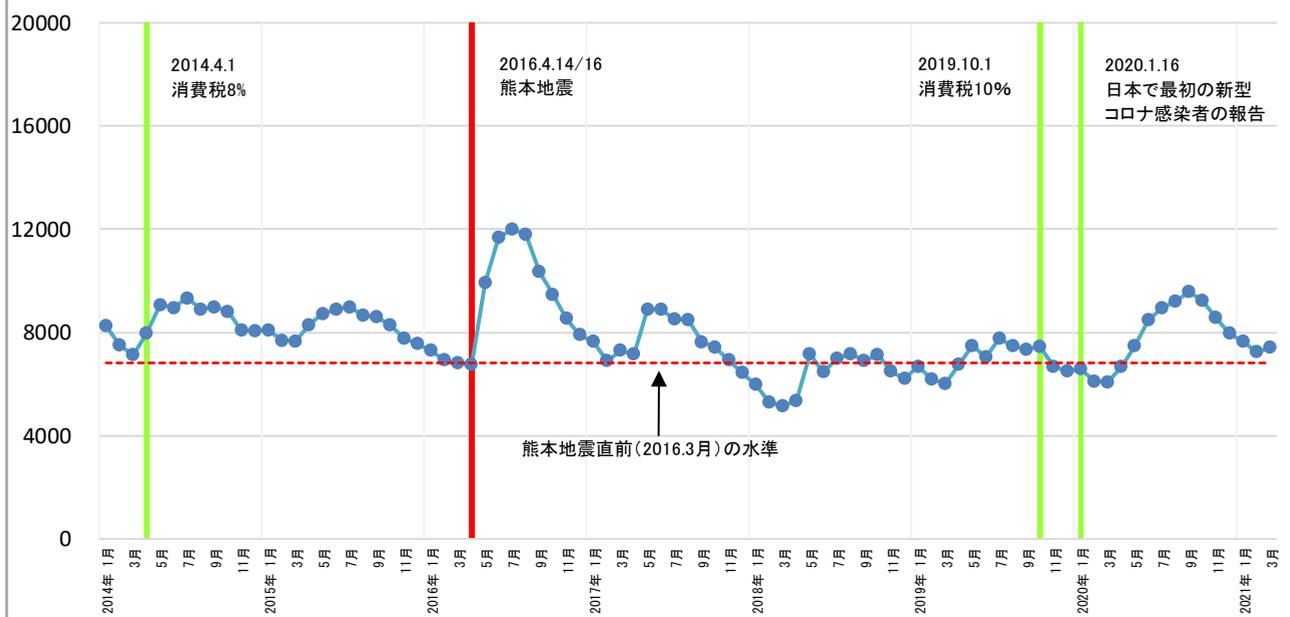
1 毎月の動き

- ◆ 地震直後の2016年5月から同年10月までの半年間は、目立って数値が大きくなっている。

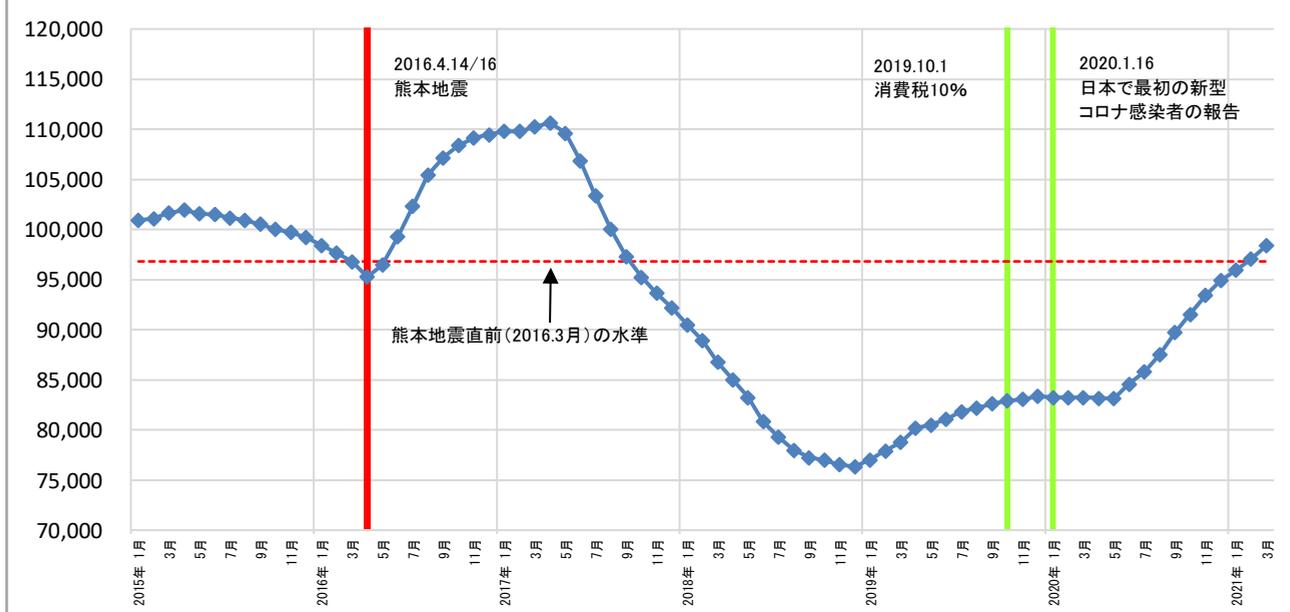
2 移動年計

- ◆ 地震後2017年4月までは上昇傾向にあり、以後2018年12月までは下降傾向にあった。2019年1月からは再び上昇に転じた。なお、コロナ禍の2020年6月以降は、上昇のペースが大きくなっている。
- ◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、地震後2017年9月までの約1年半はそれを上回る状態にあり、以後2021年1月まではそれを下回る状態が続いた。

6-3 a. 雇用保険受給者実人員数 毎月の動き [人]



6-3 b. 雇用保険受給者実人員数 移動年計 [人]



雇用保険受給者実人員数

失業動向を表す指標。一般に、好況期には減少、不況期には増加する。

7 金融

7-1 為替レート

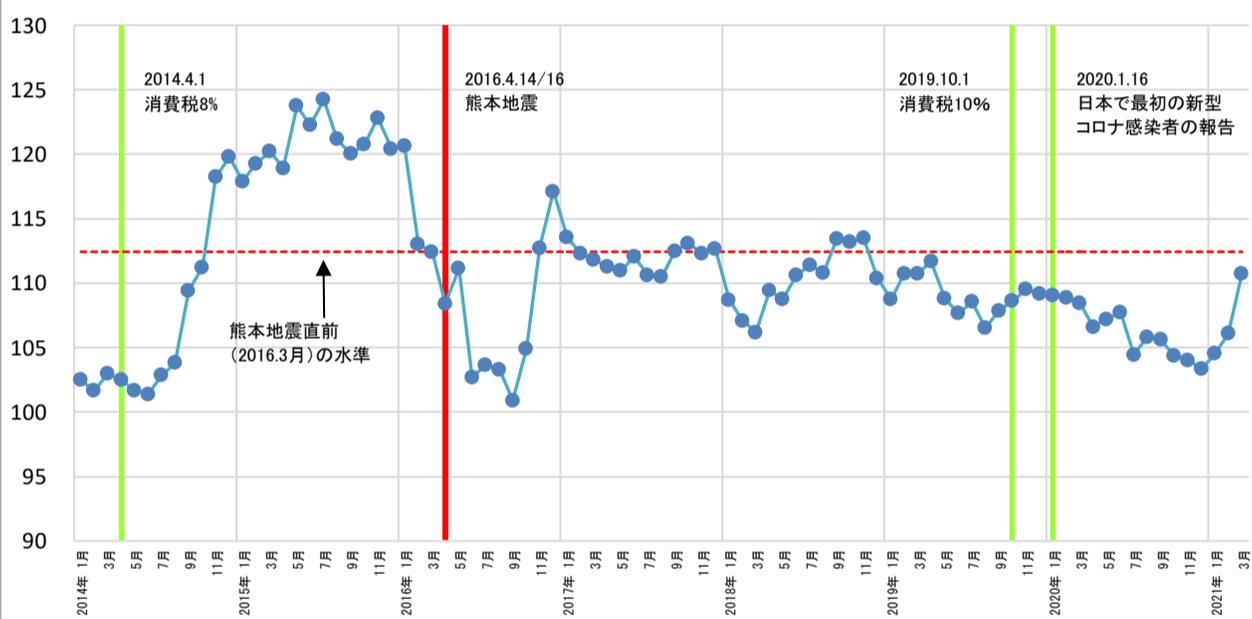
1 毎月の動き

- ◆ 地震前から円高傾向にあったが、2016年9月から12月に円安傾向となった。その後、2020年12月まで総じて円高傾向となり、2021年1月以降は円安傾向にある。

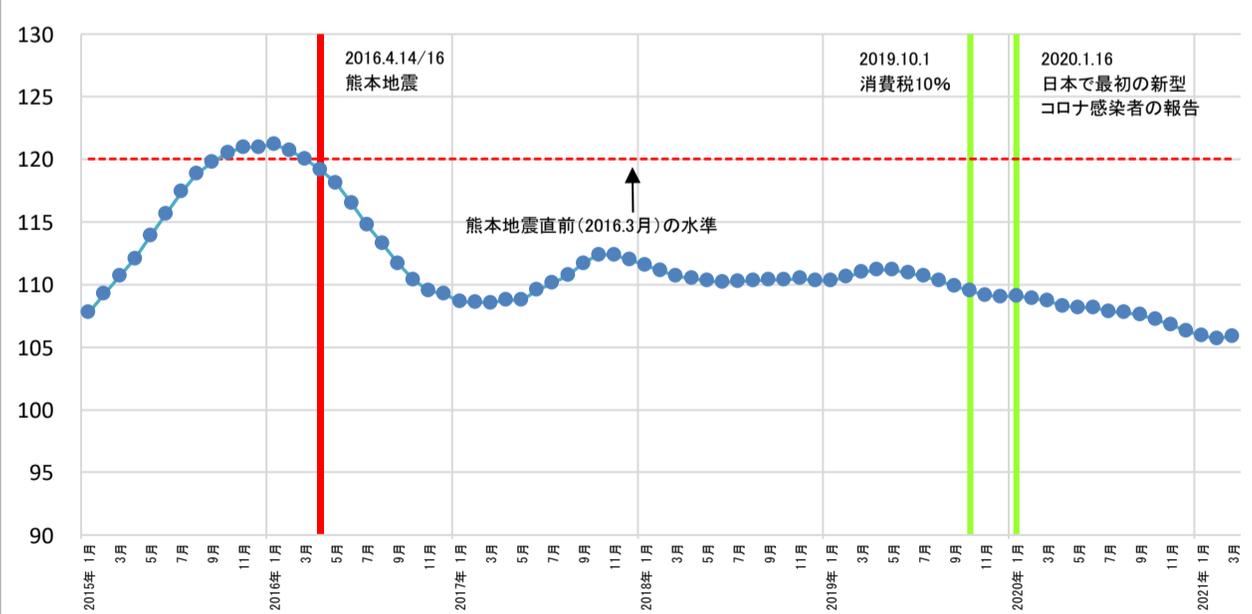
2 12か月後方移動平均

- ◆ 地震後2017年3月まで円高傾向に、以後同年10月まで円安傾向にあった。なお、同年11月以降は、多少の波はあるものの、緩やかな円高が続いている。
- ◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、地震のあった2016年4月以降、全て円高状態となっている。

7-1 a. 為替レート 毎月の動き [円/ドル]



7-1 b. 為替レート 12か月後方移動平均 [円/ドル]



為替レート

一般に、円安になれば、輸出は増加、輸入は減少する。また、金利が低下すれば金利の高い国に資本は移動するため円安になる。貿易や資本市場だけではなく、観光(インバウンド需要)等にも影響を与える重要な景気指標である。

7 金融

7-2 日経平均株価

1 毎月の動き

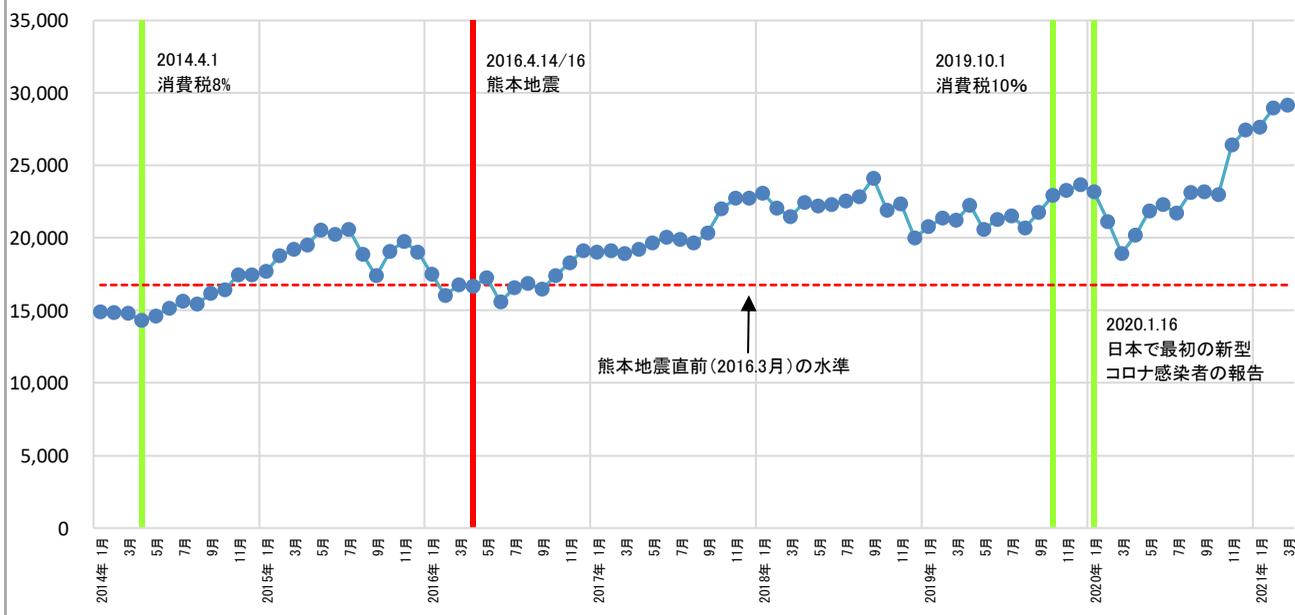
◆ 地震後、波はあるものの総じて上昇傾向にある。

2 12か月後方移動平均

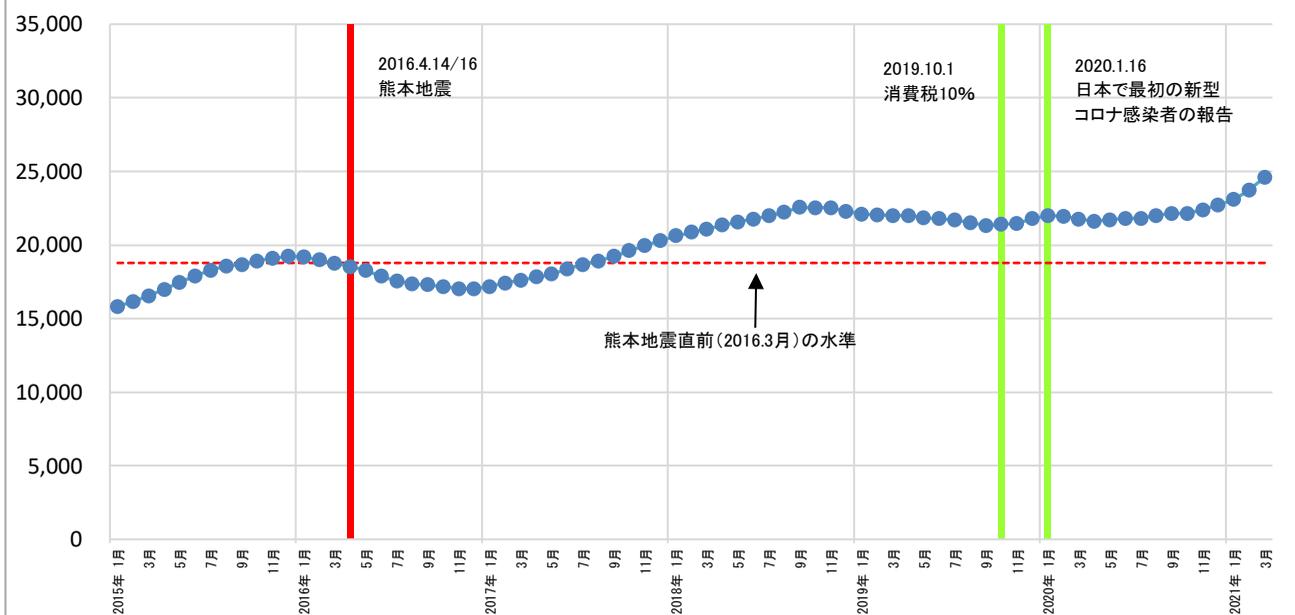
◆ 地震後2016年11月まで下降傾向に、以後2018年9月まで上昇傾向にあり、同年10月から約1年半は、緩やかな下降又は横ばいの状態にあった。その後、コロナ禍の2020年5月以降は、上昇傾向が続いている。

◆ 地震直前（2016年3月）と比較すると、地震後2017年7月まではそれを下回る状態となっていたが、同年8月以降はそれを上回る状態が続いている。

7-2 a. 日経平均株価 毎月の動き [円]



7-2 b. 日経平均株価 12か月後方移動平均 [円]



日経平均株価

一般に、株価が上がると企業の含み益も上がる。景気の先行き(企業の将来性)に敏感に反応する。

8 その他（参考）

8-1 気象（平均気温）

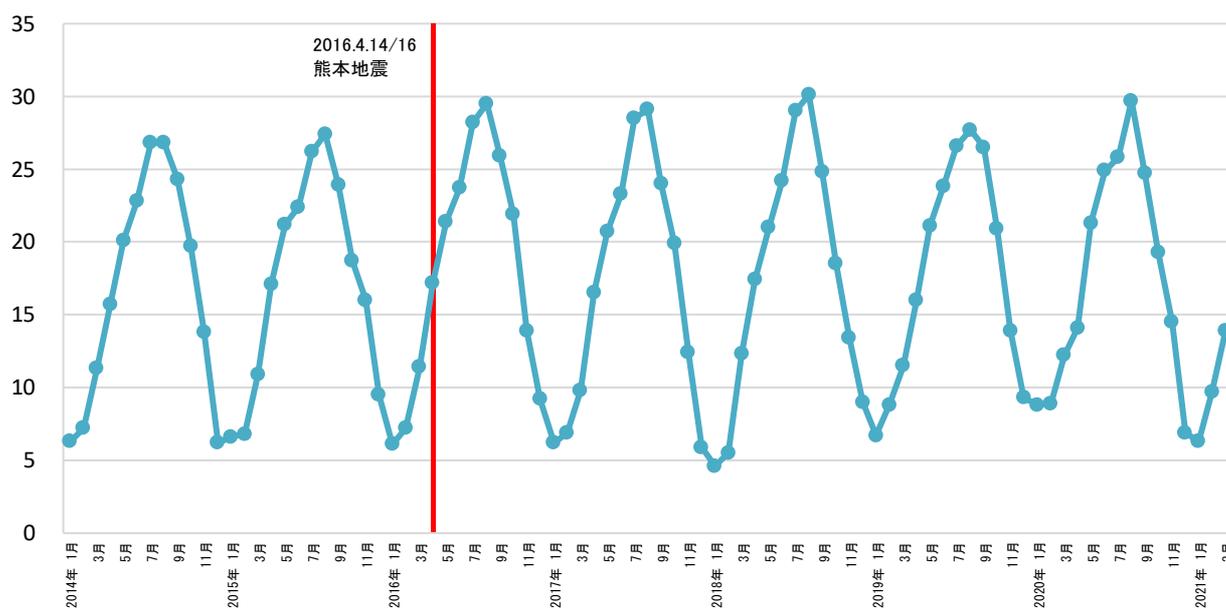
1 毎月の動き

- ◆ 地震後の5年間に於いて、夏と冬の気温差（変化の幅）が最も大きかった年は2018年であった。
- ◆ 2019年は冷夏で、同年から翌年にかけては暖冬であった。

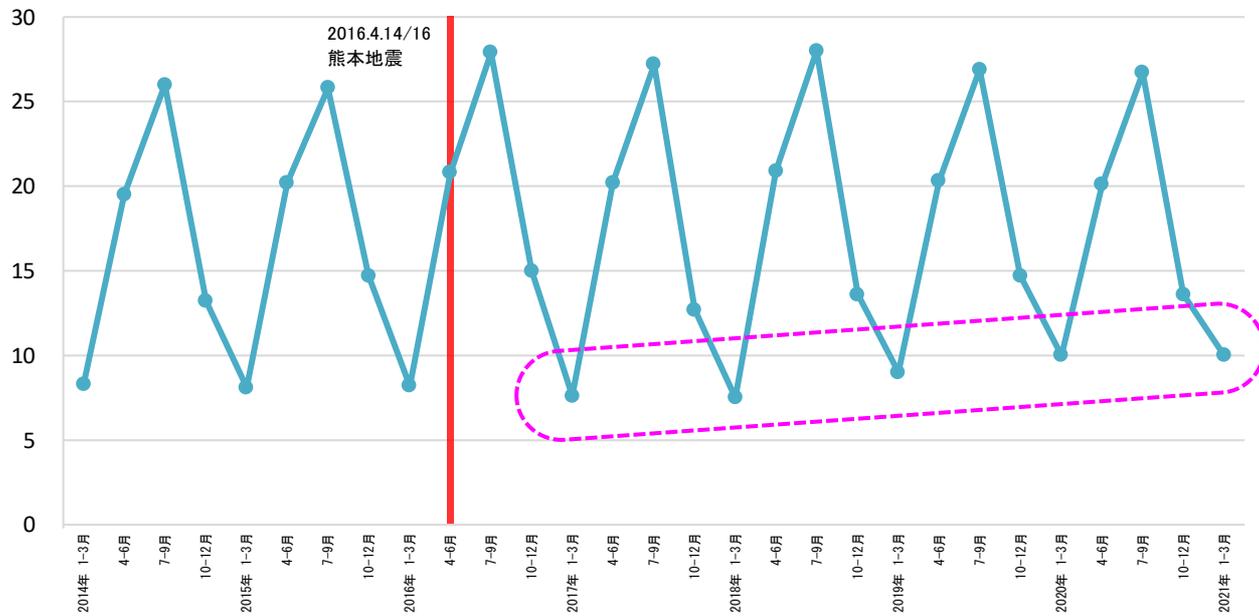
2 四半期（3か月）別値

- ◆ 地震後の5年間に於いては、主に冬季（第4四半期：1-3月）の平均気温は概ね上昇傾向にある。

8-1 a. 平均気温 毎月の動き [°C]



8-1 b. 平均気温 四半期（3か月）別値 [°C]



気象（気温と降水量）

冷夏、暖冬、大雨、台風等の気象状況は、人々の消費マインド、旅行マインド等に影響を及ぼす。

8 その他（参考）

8-2 気象（降水量）

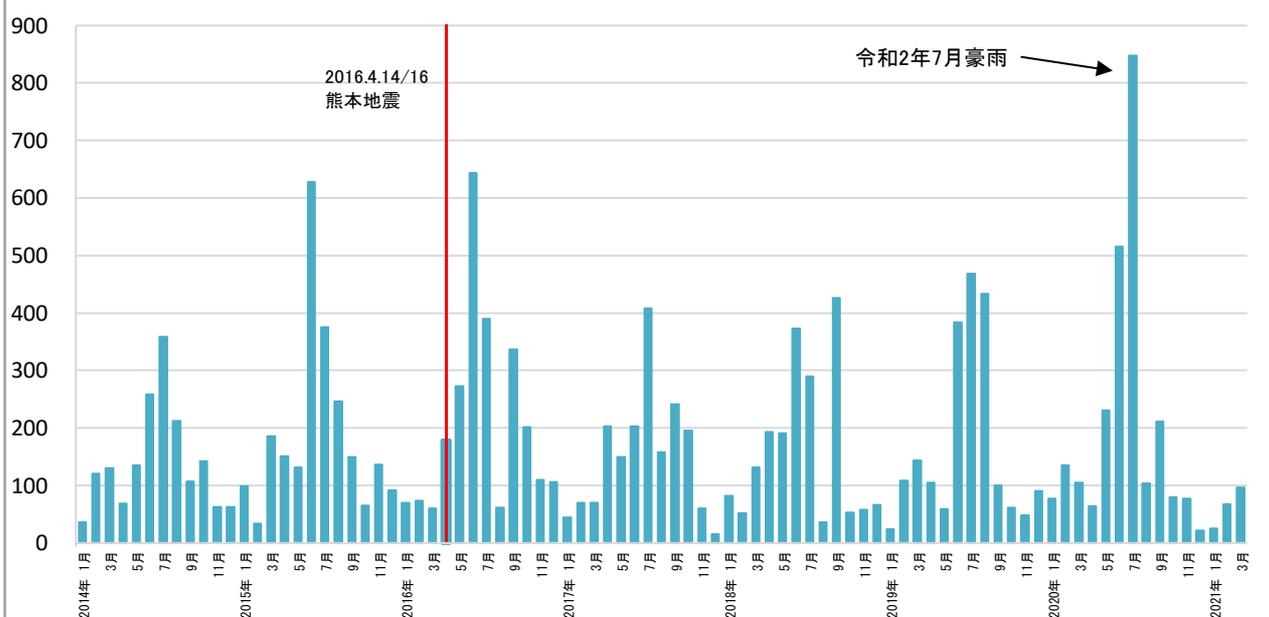
1 毎月の動き

- ◆ 地震後の5年間に於いて、6月の降水量が最も多かったのは、地震が発生した2016年であった。また、7月の降水量は、豪雨災害に見舞われた2020年が突出して多く、平年の約2倍であった。

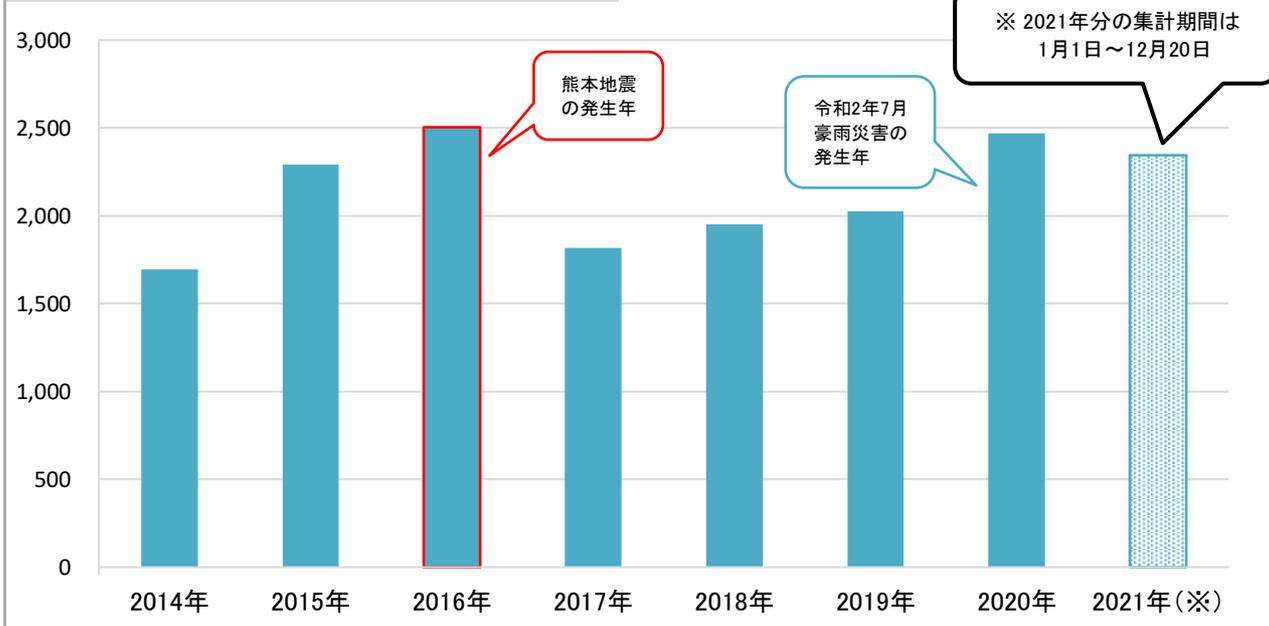
2 年間総雨量

- ◆ 地震が発生した2016年の年間総雨量は、7月に豪雨災害に見舞われた2020年の年間総雨量を上回っている。

8-2 a. 降水量 毎月の動き [mm]



8-2 b. 降水量 年間総雨量 [mm]



気象（気温と降水量）

冷夏、暖冬、大雨、台風等の気象状況は、人々の消費マインド、旅行マインド等に影響を及ぼす。

*** 御 案 内 ***

熊本県統計調査課（情報解析班）で作成する主な経済統計

1 熊本県の経済情勢 [毎月]

- ◆ 県内の経済指標について関係資料をとりまとめたものです。
「消費・物価」、「投資」、「生産・企業倒産」、「貿易」、「観光」、「雇用」、「金融」及び「その他」の分野において、それぞれ2～3の指標を選び「最新データ」と「長期のグラフ」を掲載しています。
- ◆ 足元の経済状況と長期のトレンドを見るときに利用されています。

2 熊本県景気動向指数 [毎月]

- ◆ 景気に敏感なさまざまな経済部門（消費、生産、投資、労働等）から指標を選び作成したものです。
- ◆ 景気局面の判断や予測等に利用されています。

3 県民経済計算 [毎年]

- ◆ 1年間の経済活動の循環と構造を「生産」、「分配」及び「支出」の3つの側面から計量的にとらえたものです。国のGDPの県版に当たります。
- ◆ 県経済の基礎データとして、官公庁のみならず銀行、シンクタンク、大学の研究者等の間でも利用されています。

4 市町村民経済計算 [毎年]

- ◆ 1年間の経済活動の循環と構造を「生産」及び「分配」の2つの側面から計量的にとらえたものです。国のGDPの市町村版に当たります。
- ◆ 市町村勢要覧、各種計画、市町村広報誌等で利用されています。
市町村経済の基礎データとして、官公庁のみならず銀行、シンクタンク、大学の研究者等の間でも利用されています。

5 熊本県産業連関表 [原則5年ごと]

- ◆ 1年間に熊本県で生産された財・サービスの流れを産業相互間や産業と家計・企業等との取引関係として一覧表にまとめたもので、いわば地域経済を一望できる見取り図ともいえるものです。
- ◆ この表から導き出される諸係数は、将来の経済予測や政策の企画立案・成果測定等に利用されています。

6 熊本県鉱工業指数（生産・出荷・在庫） [毎月]

- ◆ 熊本県の鉱工業の動向を総合的に把握することを目的として作成したものです。
業種別・財別にそれぞれ「生産」、「出荷」及び「在庫」の3つの指数があります。
また、前月との比較用に、季節調整を行った「季節調整済指数」も作成しています。
- ◆ 足元の鉱工業の動きや長期のトレンドの把握などに利用されています。

熊本県ホームページ（統計調査課トップページ）

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/20>

熊本県ホームページ（地域経済サブサイト）

https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/life/114158_201704_misc.pdf



熊本県 企画振興部 統計調査課 情報解析班

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電 話 : 096-333-2176 (直通)
3605・3614 (内線)

F A X : 096-384-7544